

## 会 議 記 録

会議名 予算特別委員会産業教育分科会

開催日 令和3年3月10日(水) 開会 午後 2時35分

閉会 午後 5時51分

出席者 委 員 分科会長 針 谷 正 夫

小久保 かおる 坂 東 一 敏 針 谷 育 造

白 石 幹 男 広 瀬 義 明 松 本 喜 一

議 長 小 堀 良 江

傍 聴 者 森 戸 雅 孝 小 平 啓 佑 浅 野 貴 之

川 上 均 大 浦 兼 政 古 沢 ちい子

大 谷 好 一 青 木 一 男 内 海 まさかず

氏 家 晃 入 野 登志子 千 葉 正 弘

福 富 善 明 関 口 孫一郎 大阿久 岩 人

梅 澤 米 満 福 田 裕 司 中 島 克 訓

---

事務局職員 事務局長 神 永 和 俊 議事課長 佐 山 美 枝

主 査 新 村 亜希子 主 査 岩 川 成 生

委員会条例第21条の規定に基づき出席を要求した者の職氏名

産 業 振 興 部 長	福 原	誠
教 育 部 長	川 津 浩	章
生 涯 学 習 部 長	名 淵 正	己
農 業 委 員 会 事 務 局 長	田 嶋	亘
商 工 振 興 課 長	秋 間 広	行
観 光 振 興 課 長	糸 井 孝	王
農 業 振 興 課 長	櫻 井	茂
農 林 整 備 課 長	石 塚 昌	平
産 業 基 盤 整 備 課 長	中 田 芳	明
大 平 産 業 振 興 課 長	田 中 典	行
藤 岡 産 業 振 興 課 長	田 名 網	清
参 事 兼 都 賀 産 業 振 興 課 長	大 橋 嘉	孝
西 方 産 業 振 興 課 長	手 塚 宏	夫
参 事 兼 岩 舟 産 業 振 興 課 長	苗 木	裕
教 育 総 務 課 長	江 面 健 太 郎	
参 事 兼 学 校 教 育 課 長	大 阿 久	敦
学 校 施 設 課 長	柿 沼 宏	和
保 健 給 食 課 長	五 十 畑	肇
生 涯 学 習 課 長	佐 藤 義	美
公 民 館 課 長	臼 井 秀	明
ス ポ ー ツ 振 興 課 長	押 山 好	孝
文 化 課 長	金 井 武	彦
文 化 課 主 幹	青 木 一	忠
文 化 課 主 幹	中 山 幸	夫
農 業 委 員 会 事 務 局 次 長	熊 倉 宜	和

令和3年第2回栃木市議会定例会  
予算特別委員会産業教育分科会議事日程

- 令和3年3月10日 産業教育常任委員会終了後 全員協議会室
- 日程第1 議案第3号 令和3年度栃木市一般会計予算（所管関係部分）
- 日程第2 議案第8号 令和3年度栃木市栃木インター西産業団地特別会計予算

---

◎開会及び開議の宣告

○分科会長（針谷正夫君） ただいまの出席委員は7名で、定足数に達しております。

ただいまから予算特別委員会産業教育分科会を開会いたします。

（午後 2時35分）

---

◎諸報告

○分科会長（針谷正夫君） 当分科会に送付された案件は、各分科会議案送付区分表のとおりであります。

---

◎議事日程の報告

○分科会長（針谷正夫君） 本日の議事日程は、お手元に配付のとおりであります。

---

◎議案第3号の上程、質疑

○分科会長（針谷正夫君） ただいまから議事に入ります。

日程第1、議案第3号 令和3年度栃木市一般会計予算の所管関係部分を議題といたします。

なお、本予算に対する説明は2月26日に開催された予算特別委員会全体会及び各分科会説明表の送付をもって済んでおりますので、分科会での説明は省略いたします。

また、分科会では質疑のみを行い、討論、表決については3月24日水曜日に開催される全体会において実施いたしますので、よろしく願いいたします。

これより審査に入ります。

お諮りいたします。本案につきましては、各部所管ごとに歳入歳出等を一括して審査いたしたいと思っております。これにご異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○分科会長（針谷正夫君） ご異議なしと認め、そのように決定いたします。

なお、執行部の答弁に際しましては、担当課長のみならず、質疑の内容によりましては担当部長等にご答弁いただくこともありますので、ご協力くださいますようお願いいたします。

まず、産業振興部、農業委員会事務局所管の歳入歳出等を一括した質疑に入ります。

なお、質疑に際しましては、分科会説明表の産業振興部、農業委員会事務局を御覧の上、所管部分を確認いただいて、質疑をお願いいたします。

それでは、質疑はありませんか。

小久保副分科会長。

○副分科会長（小久保かおる君） すみません、243ページの畜産振興補助事業費、繁殖牛導入促進

支援補助金というのがあるのですけれども、これは繁殖牛導入促進補助金が140万円とあります。栃木市は2年前から1頭につき10万円補助が出ると伺っていますけれども、市内の牛の生産農家の戸数というのは何件ぐらいあるのでしょうか。

○分科会長（針谷正夫君） 櫻井農業振興課長。

○農業振興課長（櫻井 茂君） お答え申し上げます。

市内の牛の繁殖農家数は、全部で10件ございます。

○分科会長（針谷正夫君） よろしいですか。

小久保副分科会長。

○副分科会長（小久保かおる君） 140万円で1頭に10万円ということは14頭しか補助がもらえないということなのですけれども、14頭だとすごく少ないと思うのですけれども、それでいいのでしょうか。

○分科会長（針谷正夫君） 櫻井農業振興課長。

○農業振興課長（櫻井 茂君） お答え申し上げます。

子牛の1頭の値段、七、八十万円から100万円以上かかる牛もありますので、今高額になっているということなので、繁殖を自らする方には、その繁殖牛の素牛の10万円を代金から補助するという形になっております。それで、毎年率先して何十頭も買っているわけではありませんので、1経営体せいぜい二、三頭、多いところでもそんなところなものですから、14頭ぐらいが適正かなと思ひまして予算措置をしているところでございます。

以上です。

○分科会長（針谷正夫君） 小久保委員。

○副分科会長（小久保かおる君） 今まで私は繁殖牛というのは雄だと思っていたのですけれども、雌だということがしっかり分かりました。すみません。それで、こういう農家の方からの要望なのですけれども、うちの近所はいろんな牛を飼っている方が多くて、雌には出るけれども、どうして雄には出ないのだという要望があるので、できましたら補助金をもうちょっと幅広くしていただきたいというのが要望です。

○分科会長（針谷正夫君） 要望でよろしいのですか。聞いたほうがいいですか。

○副分科会長（小久保かおる君） もし雄でもくれるのなら。

○分科会長（針谷正夫君） 櫻井農業振興課長。

○農業振興課長（櫻井 茂君） お答え申し上げます。

雄の牛というと種牛は、今実際、人工授精がほぼ100%でございまして、業者から獣医師から人工授精してもらう方も多いですし、また慣れている農家の方は自分で種を用意して、その時期に人工授精するものですから、種牛の補助というのは今ではちょっと難しいかなと思っております。

以上です。

○分科会長（針谷正夫君） 質疑はありませんか。

広瀬委員。

○委員（広瀬義明君） 241ページ、6款1項3目農業振興費のこれ主要事務事業になってしまうのですか、新規就農支援事業費ということでございまして、このサポート事業補助金と青年就農補助金とあるのですが、これを活用した方の件数を教えてください。

○分科会長（針谷正夫君） 櫻井農業振興課長。

○農業振興課長（櫻井 茂君） お答え申し上げます。

市の単独補助であります新規就農サポート事業、これ平成24年から実施しておりますが、延べで28名でございます。また、青年等の就農補助、国庫補助事業ですが、これも平成24年から実施しております、今現在、もらった方が26組、32名でございます。夫婦で1組となっているのが、6組ございます。

以上でございます。

○分科会長（針谷正夫君） 広瀬委員。

○委員（広瀬義明君） この2つの事業、結構続いているというか、昨年度も2,700万円を超える予算が計上されておまして、今回も同様の予算計上となっているわけなのですけれども、こういった補助を受けている方々の近年の推移、そしてもし離職をされた方等がいれば、どういう理由だったのか併せてお伺いしたいと思います。

○分科会長（針谷正夫君） 櫻井農業振興課長。

○農業振興課長（櫻井 茂君） お答え申し上げます。

結構、農家の種類は、農業の種類はばらばらでございます。ニラとかイチゴ、トマト、あと野菜でいえばハウレンソウとか、米麦ももちろんいらっしゃいますが、近年多いのは、やはりイチゴが多くなってきております。幸いなことに離農された方はいらっしゃいません。

以上です。

○分科会長（針谷正夫君） 広瀬委員。

○委員（広瀬義明君） 離農された方がいないというのは非常に喜ばしい話でございまして、農業離れをする家が多くなっている現状、少しでも離職率が低くなるようなすばらしい事業を今後も続けていただきたいと思っております。

委員長、続けてよろしいでしょうか。

○分科会長（針谷正夫君） はい、続けてください。

○委員（広瀬義明君） 次のページになります。

〔「関連でやりたいことがある」と呼ぶ者あり〕

○委員（広瀬義明君） 後で。

243ページ、中ほどにございます大平西地区農産加工所管理運営費でございましてけれども、これ

昨年度はたしか120万円の予算計上になってございました。今回、195万円ということで75万円ほど予算が増えているわけでございますけれども、実はここを利用されている方々から附属備品の修理や改善等の要望が私のところへ多数来ておりまして、この予算議会が終わったら改めてお願いに行こうと思っているわけなのですが、今回予算が増えた中で備品の購入、機具の修理等を目的とした予算増という理解でよろしいのでしょうか。

○分科会長（針谷正夫君） 田中大平産業振興課長。

○大平産業振興課長（田中典行君） お答えいたします。

委員おっしゃるように、利用者の方からご要望がありまして、来年度の予算ということで備品購入費を計上させていただいております。攪拌混合器ということで、75万円ほど予算を導入した結果でございます。

以上です。

○分科会長（針谷正夫君） 広瀬委員。

○委員（広瀬義明君） 75万円の備品購入ということで、75万円といえばそれ相応の備品の購入ができるかと思うのですが、いただいている要望全てを賄える額という理解でよろしいのでしょうか。

○分科会長（針谷正夫君） 田中大平産業振興課長。

○大平産業振興課長（田中典行君） お答えいたします。

私どもにいただいている利用者からのご要望には、お応えできる額になっていると認識しております。

以上です。

○分科会長（針谷正夫君） 広瀬委員。

○委員（広瀬義明君） 私のところに届いている市民の声とすれば、お願いをしたのだけれども、予算がないということで全て断られてしまっていたという非常に悲しい声が届いておりまして、とはいえ歳入のほうにもございますとおり、使用料ということで市民の皆様から使用料をいただいている以上は、要望に応じていただけるような内容にさせていただけるとありがたいと思います。今回、そういったことで予算を計上していただいたということで、私も市民の方にご説明ができると思いますので、今後も市民の方の要望を聞き入れていただけるように要望させていただきたいと思いません。

では、白石さん、関連どうぞ。

○分科会長（針谷正夫君） それでは、先ほどの新規就農支援事業についての関連ということで、白石委員。

○委員（白石幹男君） 新規就農については、国はある程度の、年間150万円つけると、5年間ということですがけれども、農業後継者というか、やっぱり親から子に世代交代というか、そこもやっていかないと駄目だと思うのですが、その点についての補助金というか、そういうのはあるの

ですか。

○分科会長（針谷正夫君） 櫻井農業振興課長。

○農業振興課長（櫻井 茂君） 来年度、まだ未定稿なのですが、国の経営継承・発展等支援事業というのがございまして、最大100万円、それは直接国が払うのではなくて、民間団体を通しまして交付するわけなのですが、国が半分50万円で、市も半分持てという話になっておりまして、その詳しい要綱、要領がまだ国から示されておりませんので、今回は当初予算には要求はさせていただいておりませんが、分かり次第、補正予算で対応させていただきたいと思っております。

以上です。

○分科会長（針谷正夫君） ほかに。

白石委員。

○委員（白石幹男君） 農業、今現在も高齢化で、もう60代、70代の人を中心にやっているということで、そういった後継者をつくっていくというのが重要だと思うのですが、今回、国の発展何とかと言っていましたけれども、100万円、これ補正でやるということなのだけれども、今のところどんな感じに考えているのですか。

○分科会長（針谷正夫君） 櫻井農業振興課長。

○農業振興課長（櫻井 茂君） 答弁になるかちょっと難しいのですが、まだはっきり、ただ100万円という形で先走って新聞とかに載っているだけなので、最高で100万円というだけなので、具体的に必要額が全部出るかどうかというの分かりませんので、要綱、要領を確認して、それからちょっと準備をさせていただければと思います。

以上です。

○分科会長（針谷正夫君） 松本委員。

○委員（松本喜一君） 245ページ、田んぼダム整備事業で、栃木市と都賀町、小倉とトータル60ヘクタール、1,000万円ということなのですが、この土地改良区のほうに田んぼダムをどうぞという地権者は、もうある程度は決まっているのでしょうか。

○分科会長（針谷正夫君） 石塚農林整備課長。

○農林整備課長（石塚昌平君） 本市の田んぼダム整備につきましては、今年度の9月補正で200万円計上させていただきまして、都賀町土地改良区、それと栃木市土地改良区で各5ヘクタールずつ、今回100万円ずつ分けまして設置をしています。来年、ここに計上させていただいた1,000万円、これを小倉堰土地改良区、それと都賀町土地改良区、栃木市土地改良区にそれぞれお願いをするという状況でございます。

地権者の皆様には、栃木市土地改良区と都賀町土地改良区は今年度整備を行っておりますので、内容等は地区の役員さんをはじめ、ある程度田んぼダムについてご理解をいただいているというふうに考えております。ただし、小倉堰土地改良区につきましては、来年度が初めての取組というところ

ところで、来年度に入りましたらば丁寧な説明をして、下流域の浸水対策、被害軽減に向けた取組の一環としてご協力をいただきたいということでお願いをしてまいりたいというふうに考えております。

以上です。

○分科会長（針谷正夫君） 松本委員。

○委員（松本喜一君） ぜひ地権者に了解いただいて、早いところやっていただきたい。補正予算と今回の新年度予算で、田んぼダムの水は何立米ぐらいダムとしてできるのでしょうか。

○分科会長（針谷正夫君） 石塚農林整備課長。

○農林整備課長（石塚昌平君） 5,000平米、例えば5反歩の田んぼで考えてみますと、水が15センチということであるとおよそ750トンぐらいですか、750トン程度水がたまるという状況でございます。これがちりも積もればではないですけれども、面積を多く取れば取るほど、その効果は絶大ということを考えておりますので、ご理解をいただきたいと思います。

○分科会長（針谷正夫君） 松本委員。

○委員（松本喜一君） いつ水害が来るか分かりません。もし今回の予算以外にまだ地権者が田んぼダムに使ってもいいですよとなれば補正でも組んで、できるだけ水害にならないような状況をつくってもらいたいのですけれども、その辺は考えているのでしょうか。

○分科会長（針谷正夫君） 石塚農林整備課長。

○農林整備課長（石塚昌平君） 新聞等で御覧いただいたかと思いますが、小山市、宇都宮市は全然桁が違う。1,000ヘクタール、小山市辺りは1,500ヘクタールとか、宇都宮市でも1,000ヘクタールを超える田んぼダムの整備をしていくということでございますので、当然栃木市も被害軽減に向けた取組の一環として田んぼダムを積極的に整備を行っていかざるを得ない、いきたいというふうに考えておりますので、今現在は巴波川上流をちょっと集中的に行っていますけれども、将来的には市内全域、藤岡から西方まである程度土地改良した田んぼに、できれば整備を進めてまいりたいというのが将来の方針でございます。

以上です。

○分科会長（針谷正夫君） よろしいですか。

松本委員。

○委員（松本喜一君） ぜひできれば永野川、巴波川に入っていきような農家の排水を田んぼダムで止めるような状況を早急にやっていただきたい。それが大体できていったら、そのほかにも増やしていただきたいと思いますので、要望です。よろしくお願ひしたいと思います。

○分科会長（針谷正夫君） 要望でよろしいですね。

白石委員。

○委員（白石幹男君） 関連で、補正のほうで田んぼダム整備事業費ということで1,400万円ですか、

これは吹上のほうで調整が遅れてどうのこうのなんて言っていましたけれども、ここの関係というのはどうなっているのですか。

○分科会長（針谷正夫君） 石塚農林整備課長。

○農林整備課長（石塚昌平君） 3月補正で1,400万円事業費で計上させていただいたスマート田んぼダム実証事業というのが導入を考えています。いわゆる国の第3次補正で全国8か所採択された中の一つが本市です。国のほうから1,000万円、ほかに市単独分で400万円の予算で実証実験を行うわけなのですが、スマート田んぼダムの内容的には自動で遠隔操作ができるのです。

先ほど9月補正で、通常の田んぼダムというのは落水調整ますという板を入れて排水をちょっと止めましょうというような簡単な仕掛け、それも大雨が降る2日前にその板を入れてくださいという形で農家をお願いするわけなのですが、今回のスマート田んぼダムは給水、排水が遠隔操作、自動で行えるということなので、大雨が降っているときに田んぼに行って板を入れるとかそういう作業がない。農家の皆さんの負担軽減にもつながって、田んぼダム整備も行えるということで、それを吹上東部地区で行うわけなのですが、普通の田んぼダムが5ヘクタールあります。その横にまたスマート田んぼダムが5ヘクタール、あと通常の何もしない田んぼが5ヘクタールという横並びで、塚越山の東辺りになるかと思えますけれども、吹上小学校の東側です。横並びで見られるわけですが、その田んぼに水位計をつけて、1時間当たりどれぐらいたまったか、その効果を実証実験を行う。4月から整備に入りまして、5月の田植え前、水を入れる前に大至急排水ますと給水栓をつけて、6月から実証を行うということで、横並びで見られるという状況でございます。

以上です。

○分科会長（針谷正夫君） 身振り手振りでありがとうございました。よく分かった。

白石委員。

○委員（白石幹男君） 今回は栃木市と都賀町と小倉堰土地改良区ということで予算取ったのですが、これは全くさっきの実証実験ではなくて、手でやるということなのですか。

○分科会長（針谷正夫君） 石塚農林整備課長。

○農林整備課長（石塚昌平君） 今回、当初予算で1,000万円計上させていただいたものは、通常の田んぼダム、いわゆる大雨の2日前に田んぼに行って板を入れていただいて、排水を抑制する仕掛けをしてくださいという通常の田んぼダムです。

以上です。

○分科会長（針谷正夫君） よろしいですか。

小久保副分科会長。

○副分科会長（小久保かおる君） 249ページの金額は少ないのですが、木とのふれあい体験委託事業費というのがあつたのですけれども……

〔何事か呼ぶ者あり〕

○分科会長（針谷正夫君） もう一回お願いします。

○副分科会長（小久保かおる君） 249ページの木とのふれあい体験委託事業費というのがあるのですけれども、これはこちらを見ると木工教室というふうになっているのですけれども、委託先はどこなのか、対象者はどういう人なのか教えていただけると。

○分科会長（針谷正夫君） 石塚農林整備課長。

○農林整備課長（石塚昌平君） これは毎年行っている体験教室でございまして、まず通常ですと7月に林業体験教室ということで寺尾小学校の5、6年生を対象に木工教室、そういった活動をしております。もう一つは、例年ですと2月になりますけれども、出流ふれあいの森を拠点として一般募集を行いまして、親子の木工教室、あと蛍の幼虫を放流とかいろいろ、あとはシイタケ原木に駒打ちをするとか、そういった活動を行っている事業でございまして。

以上です。

○分科会長（針谷正夫君） 小久保副分科会長。

○副分科会長（小久保かおる君） 今、コロナ禍において木とかそういう事業というか取組は、心と体の相乗効果を物すごく高めている行動だというふうに言っていますので、もしこれがもうちょっと拡大していければいいなと思います。要望です。よろしく願いいたします。

○分科会長（針谷正夫君） 要望でよろしいですね。

松本委員。

○委員（松本喜一君） 要望みたいになってしまうのですけれども、私も大工ですから、もし建築業組合に言ってもらえば木工教室お手伝いもできるのかなと思うのですけれども、ちょっとどうでしょうか。

○分科会長（針谷正夫君） 石塚農林整備課長。

○農林整備課長（石塚昌平君） より多くの皆さんにご協力をいただいて、このコロナ禍で、今回2月13日に実は木工教室を行ったわけなのですけれども、通常ですと10組とか合計で20組近くの親子に、三、四十人の親子に体験をしていただくという実績があるのですけれども、今回はコロナ禍でしたので、午前中3組、午後3組、合計で20人の親子に木工体験、木工教室というのですか、あとは蛍の放流を行っていただいたということで、来年度に入りましては、もっと募集を多くさせていただいて、こういった体験をできるだけ多くの方にさせていただけるよう努力していきたいというふうに思っております。

また、先ほどの委員さんのご提案のように、より多くの皆さんにご協力いただきながら、もっといい木工教室も開ければいいなというふうに考えておりますので、その節にはご協力をよろしくお願いしたいと思います。

○分科会長（針谷正夫君） ほかに質疑はありませんか。

針谷育造委員。

○委員（針谷育造君） 245ページなのですけれども、田んぼダムで話題になりましたけれども、その上に防災重点農業用ため池整備事業費3,048万1,000円、その下で説明を委託料ということで3,000万円、補正で4,000万円が上がっていたような気がするのですけれども、この場所と箇所数、どういう調査をするのか。

○分科会長（針谷正夫君） 石塚農林整備課長。

○農林整備課長（石塚昌平君） 防災重点農業用ため池につきましては、令和元年、そして今年度、市内55か所のうち25か所が防災重点ため池になっております。25か所全てハザードマップは、今年度完了します。今回、3月補正と当初予算、3月補正は4,000万円、当初予算は3,000万円ということで、防災、ため池の地震のときにどれだけ耐えるか、豪雨のときにどれだけ耐えるか、それと現状の劣化状況はどういった劣化をしているかというその調査を行いまして、将来的にはため池の強化、長寿命化に向けた整備をしていくための基礎調査になります。

3月補正の4,000万円につきましては、ちょっと話が前後しますけれども、令和3年度に7か所、7,000万円の予算を計上する予定でしたが、国の第3次補正で4,000万円、1か所1,000万円の4か所分を補正で追加補正受けられましたので、補正対応で4か所、当初予算対応で3か所になります。当初予算の場所ですけれども、1つが栃木の小野口の打越溜、それと都賀の大柿にあります大柿西溜、それと岩舟の小野寺にあります足洗溜、そちらを当初予算で3か所予定をしております。

補正のほうは、大平地域弁天上溜、弁天下溜、いわゆる西山田のところのため池、それと岩舟地域にあります鷺巣、これは岩舟山の東側、それと岩の入溜（下）という、岩舟の三谷にあります岩の入溜（下）という、そのため池をやっていきたいと思います。

この採択、なぜこの7か所が先に調査を進めるかというのが、受益面積、いわゆるため池を使っている面積が2ヘクタール以上ないと優先的に調査ができなかったものですから、まずは7か所、今回、補正と当初で行うという状況です。残りの18か所ですか、25か所ですから18か所は令和4年度に行うというふうに予定をしております。

以上です。

○分科会長（針谷正夫君） よろしいですか。

針谷育造委員。

○委員（針谷育造君） では、次の質問に移らせていただきます。

歳入なのですけれども、歳入で21款の諸収入……

○分科会長（針谷正夫君） 何ページですか。

○委員（針谷育造君） 120ページと121ページです。金額は45万円なのですけれども、観光農園施設整備等資金貸付金元利収入45万円、これにつきまして平成21年から町時代、そして栃木市になって1億5,000万円観光農園に貸付けをしているわけですけれども、ここの45万円という利子だけが4年間入っておると思うのですけれども、これ据置期間というのは何年でしたか。

○分科会長（針谷正夫君） 苗木岩舟産業振興課長。

○参事兼岩舟産業振興課長（苗木 裕君） 正規期間……

〔「据置期間」と呼ぶ者あり〕

○参事兼岩舟産業振興課長（苗木 裕君） 据置期間ですか。据置期間につきましては、要綱のほうで貸付けから4年間は据置き、その後20年間の返済という形になっております。

○分科会長（針谷正夫君） 針谷育造委員。

○委員（針谷育造君） そうしますと、4年間過ぎたものというのは、今どのくらい貸付金としてはあるのでしょうか。

○分科会長（針谷正夫君） 苗木岩舟産業振興課長。

○参事兼岩舟産業振興課長（苗木 裕君） 1億5,000万円ほど残っております。

○分科会長（針谷正夫君） 針谷育造委員。

○委員（針谷育造君） そうしますと、1億5,000万円です。私、資料もらいましたけれども、800万円近い元金と利子、返済計画はあるようでありましてけれども、これが45万円になっているというのとはどういう理由でなっておるのでしょうか。

○分科会長（針谷正夫君） 苗木岩舟産業振興課長。

○参事兼岩舟産業振興課長（苗木 裕君） ここ数年間の状況でございますけれども、本来ですと返済可能というか、返済請求額は800万円ほどの先ほど委員がおっしゃられたとおりの数字となっております。ただ、見込みであるわけですが、現在のコロナ状況、感染状況の収束が見えない状況、また経営の状況がここ数年やはり悪かったような状況で、今もコロナを含め経営の安定が図られていない状況ということがございまして、収入としては期待としては800万円ほど上げておきたいところなのですが、確実に返済いただく金額として45万円分について予算としては計上している状況でございます。

○分科会長（針谷正夫君） 針谷育造委員。

○委員（針谷育造君） 利子ということですね、45万円は。1億5,000万円の利子が45万円。

○分科会長（針谷正夫君） 苗木岩舟産業振興課長。

○参事兼岩舟産業振興課長（苗木 裕君） 利子でございます。

○分科会長（針谷正夫君） よろしいですか。

針谷育造委員。

○委員（針谷育造君） そうしますと、経営も非常に、去年の決算書を見ましたけれども、単年度赤字が4,200万円だか4,300万円持っていると思います。前年度も三千何百万円の赤字ということで、これはこの利子というか返済金とはどう連動するのか私もよく分かりませんが、平成でしたか、日本理化工業が観光農園の筆頭株主になる、7,000万円の増資によって筆頭株主になったわけですが、それ以降はずっと赤字が続いていると、単年度赤字が。累積赤字も2億円を超して

いるというような私の記憶なのですけれども、その辺の数字は分かりますか。

○分科会長（針谷正夫君） 苗木岩舟産業振興課長。

○参事兼岩舟産業振興課長（苗木 裕君） 日本理化につきましては、昨年、9,000万円ほどの融資をしてございます。9,000万円の融資をしておりまして、観光農園といたしましては、その9,000万円を使いながらの経営という形でございまして、昨年度の決算によりますと、本来ですと9,000万円出資がありますので、現金預金がプラ・マイ・ゼロでありますと、その前の繰越しと合わせて約1億円ほど残っているはずでございますけれども、そこでマイナスの4,000万円が先ほど言ったようにありましたので、現金預金といたしましては約6,000万円ほどの金額の残というふうな決算が出ております。

決算書につきましては、今年度の9月のときに観光農園として決算書のほうを議会のほうへお示ししているところでございますけれども、そこからまた新たにコロナ禍の影響がございまして、1月ぐらいまでの影響のほうを確認しているところですが、やはり何千万円かの赤字が見込まれるような状況となっているところでございます。

以上です。

○分科会長（針谷正夫君） 針谷育造委員。

○委員（針谷育造君） 苗木さんに聞くのも非常に、もう手を離れたという、筆頭株主は日本理化工業でありますので、先ほど融資という話をしましたけれども、9,000万円の融資、これは増資と違うのですか。

○分科会長（針谷正夫君） 苗木岩舟産業振興課長。

○参事兼岩舟産業振興課長（苗木 裕君） 増資でございます。失礼しました。

○分科会長（針谷正夫君） 針谷育造委員。

○委員（針谷育造君） そうすると、現在はその増資の9,000万円を食べながら経営しているということが、構図的にあるわけですね。

○分科会長（針谷正夫君） 苗木岩舟産業振興課長。

○参事兼岩舟産業振興課長（苗木 裕君） 現在、現金預金が減ってきておりますので、その増資により得た金額が徐々に減ってきている状況でございます。

○分科会長（針谷正夫君） 針谷育造委員。

○委員（針谷育造君） そうしますと、この経営改善、これは栃木市は10%弱ですよ、株式を持っているのは、10%。

○分科会長（針谷正夫君） 苗木岩舟産業振興課長。

○参事兼岩舟産業振興課長（苗木 裕君） 約18%ほど所有しております。

○分科会長（針谷正夫君） 針谷育造委員。

○委員（針谷育造君） そうしますと、株主総会になれば株を持っている人が一番決定権は出てくる

わけですけれども、栃木市として18%持っているということになれば、この経営改善のために社長や市の部たちとのお話し合いなり、どうしましょうかと、どうして黒字にしましょうかという働きかけは今まではなかったですか。

○分科会長（針谷正夫君） 苗木岩舟産業振興課長。

○参事兼岩舟産業振興課長（苗木 裕君） 観光農園につきましては、いわふねフルーツパークセンターのほうの指定管理も実際しております。そういった関係で、毎月そういった経営の状況についてはお話ししているところですが、直接社長とお話しするようなことはちょっとできないのですけれども、そういった中で経営の在り方とまでは言わないのですけれども、経営の状況等を確認しながら、こうやったらもう少しいいのではないかとか、そういった意見についてはいろいろ出させてはいただいているところですが、株主としてのそういった意見については、総会するときでもあれば発言はできるかと思うのですけれども、なかなかその前段では今のところ実施はできていない状況でございます。

○分科会長（針谷正夫君） 針谷育造委員。

○委員（針谷育造君） そうしますと、株主は、現在栃木市では、いわゆる代表取締役はほかの、大栗さんがやっていると思いますけれども、取締役には栃木市は入っていますか。

○分科会長（針谷正夫君） 苗木岩舟産業振興課長。

○参事兼岩舟産業振興課長（苗木 裕君） 栃木市は、取締役としては入っておりません。

○分科会長（針谷正夫君） 針谷育造委員。

○委員（針谷育造君） ちょっと不思議だなと思うのは、18%の株を持っているとすれば、取締役の一人はそこへ入らないと18%の心意気も示せないし、借金を返してもらおうということも、これは苗木さんに言っただ変気の毒だけれども、部長がいないからなのですけれども、そのことを……

〔「部長いるよ」と呼ぶ者あり〕

○委員（針谷育造君） 部長いた。すみません。では、福原部長さん、大変失礼しました。福原部長さん、この辺のところの改善をやはりしていかないと大変なことになっていくなというふうに思いますので、何か方法がありましたら決意を述べていただきたいと思います。

○分科会長（針谷正夫君） それでは、福原産業振興部長。

○産業振興部長（福原 誠君） これまでも県の技術指導があったり、いろんな経費の削減なども図ってきまして、徐々に平成30年度ぐらいから売上げ、収益も上がってきたところでしたが、やっぱりこのコロナ禍の影響、また台風での被害なんかもありまして、せっかく上がってきたところなのですが、イチゴ狩りなどの観光客が激減したために、経営状況が厳しいという状況にあります。このようなことから、これを乗り切れれば何とかまた、今度は直売所なんかも自分でやっているような状況になりまして収益も上がっているところですので、今後、上向いていくと思っています。そのような中で今後も、市としてもやはり株主としていろいろな今後の経営改善策等もお話し合いながら、

よりよい経営に向けて進めていきたいと思っています。

○分科会長（針谷正夫君） よろしいですか。

広瀬委員。

○委員（広瀬義明君） 253ページ、7款1項2目になります。産業支援補助事業費でございます。

ここに3点ほど明細事業載っておりますけれども、これ結構前から継続的に行われているものがございますが、来年度、この金額、内訳を教えてください。

○分科会長（針谷正夫君） 何ページでしたか。

〔「253」と呼ぶ者あり〕

○分科会長（針谷正夫君） 秋間商工振興課長。

○商工振興課長（秋間広行君） この産業補助事業費の内訳ということでよろしいですね。新製品等開発支援事業費補助金、こちらのほうは限度額が100万円ですから2件を予定してございます。

それと、産業財産権取得補助金、実用新案権とか商標権とか意匠権、こちらについては10万円が5件で50万円、そして特許権が50万円が3件で150万円でございます。合わせて200万円。空き店舗活用促進事業、こちらは改修のほうは限度額やはり100万円ですから、100万円掛ける4件を一応見越してございます。それで400万円。家賃のほうは、今継続が2件入ってございますので、こちら継続が2件、新規が4件、合わせて508万円を今のところ予定しているというところでございます。

○分科会長（針谷正夫君） 広瀬委員。

○委員（広瀬義明君） 今年度の予算もそうなのですが、今年度、来年度とほぼ同額の予算が計上されているかと。ただ、このコロナ禍において新製品開発はともかくとして、財産権取得、特許取得に向けたものですか、空き店舗利活用、かなり影響が出ているのではないかと、そういうふうに感じますけれども、本年度の実績、そして来年度に向けてその数が達成できそうなのか、実情を含めてお伺いしたいと思います。

○分科会長（針谷正夫君） 秋間商工振興課長。

○商工振興課長（秋間広行君） ちょっとすみません。上から新製品等開発支援事業補助金、こちらそもそも大平のほうで、旧大平時代からあった事業でございまして、それから合併になって栃木市1年にこの事業が来たということなのですが、私も今2年目で、この事業の審査とか応募とかやっていますけれども、まだまだこの事業が広がっていないということなので、やはり物づくりの技術を持った中小企業の方というのは、結構いるかと思うのです。やはり都賀、また旧栃木、そういう方にぜひ参加を呼びかけるように、去年も会議所、商工会のほうに働きかけしたのですが、今年ももうそろそろ動こうということで、4月1日から募集なのですが、もうその周知徹底をして、なるべくまずこの目標は達成できるようにしたいかなと思います。

産業財産権取得補助金、こちらについては取得するのに結構時間がかかるので、何といたしましゅう、すみません、こちらのほうの実績でございますけれども、令和2年は申請件数が8件ございま

した。実用新案権が2件、意匠権が1件、商標権が5件で、金額で50万8,000円でございますけれども、やはりこれについてはタイミングがいいときには結構出るのでございますけれども、ゼロというときもあるので、なぜかといったら時間がかかって、そのタイミングがいいときに出てくるものですから、そういうこともあります。やはりこれも周知徹底というのが重要だと思いますので、そこをやはりアナウンスしていくことが一番大切だなと思っていますので、そこも力を入れていきたいなと思っています。

最後に、空き店舗活用促進事業補助金、こちらについては対象区域が栃木地域でいきますと、蔵の街大通り沿い、銀座通り、みつわ通り、嘉右衛門町の例幣使街道、それと新栃木駅からアイムのところの通りが栃木地域、大平地域が富田地区中心市街地商業振興会エリア、西方では金崎商店街エリアと限られたエリアでございますので、我々とするともう少し、今検討しているのがやはり補助対象区域の拡大ということで、都市マスタープランもございまして、立地適正化計画、そういうのもございまして、あと用途地域も踏まえてもう少し使えるような、空き店舗も多くなってきていますので、そこをできるだけ使えるようなやっぱり制度設計に見直しが必要ではないかと思っています。

それで、一応令和2年度の実績ですけれども、いわゆる空き店舗の改修費については2件ございました。それと、家賃のほうは継続で1件、合計で3件ございまして、なかなか目標の数字までいっていないというのが実際ですけれども、やはりエリアを拡大するなり見直しをして、この空き家対策を、あと商店街の活性化ですか、そちらを実現するにはやはり見直しが必要だということで、今検討に入っている段階でございます。

以上でございます。

○分科会長（針谷正夫君） ほかに質疑。失礼しました。

広瀬委員。

○委員（広瀬義明君） もともとこの空き店舗活用事業、これは商店街活性化を目的として始まった事業でございますので、今答弁いただいたとおり金崎、そして栃木地区においては各商店街、大平においては富田の地域内で商店街と認定されたところでしかできないのがネックになっておりまして、私が今から申し上げようと思ったのが、まさに秋間さんおっしゃったとおりエリアの拡大を図ってはいられないものかということで、実はこれ結構若手の開業したいと思っている方々からご相談いただくことが多いのですけれども、エリアの拡大、あまり人が来ないところに造られても困りますが、やはり空き店舗が増えてきたとはいっても、商店街から外れたところにある店舗もございまして、商売によってはそういった店舗のほうの方がやりやすい、いいのだということもございまして、ぜひ広げていただけるように要望させていただきたいと思っております。

委員長、続けてよろしいですか。

○分科会長（針谷正夫君） はい、どうぞ。

○委員（広瀬義明君） 商店街の活性化という言葉を使わせていただきましたので、次の255ページ、

上から10行目ぐらいですか、産業振興補助事業費の中で商店会活性化補助金というのがございます。福原部長、何となくどきどきしていると思いますが、昨年もお願いをさせていただきました。昨年度は100万円の補助金が計上、150万円でしたか、計上されておりました。今回、20万円増となっております。今年度までは栃木地域の商店街の活性化のみに使われていた補助金でございますけれども、今年の使用用途の拡大はあったのでしょうか、まずその点をお伺いします。

○分科会長（針谷正夫君） 秋間商工振興課長。

○商工振興課長（秋間広行君） お答えします。

商店会活性化補助金、これ170万円の内訳でございますけれども、栃木市商店会連合会が150万円、富田地区中心市街地商業振興組合が20万円でございます。

○分科会長（針谷正夫君） 広瀬委員。

○委員（広瀬義明君） 拡大を図っていただきまして、誠にありがとうございます。ただ、これややはりなかなか行政に見ていただけない、分かってもらえない活動をしていらっしゃる商業地域の方々も、まだたくさんいらっしゃるのも事実でございますので、例えば西方の金崎商店街においても、コロナ禍において何とかしようということで有志の皆さん頑張っていると思います。そういう声を聞き届けていただきまして、来年度等に向けて拡大についてご尽力を賜ればと思います。

委員長、もう一回続けていいですか。

○分科会長（針谷正夫君） はい、どうぞ。

○委員（広瀬義明君） 同じページの一番下でございます。商店街景観向上事業補助金600万円でございます。これ銀座通りのアーケードの撤去に係る費用ということで聞いておりますけれども、この事業、実は地元商店街には昨年のうちにもう説明があったかと聞いております。その中で電線の地中化工事という話も出ていたかと思うのですけれども、今回は、このアーケード撤去だけにとどまるのでしょうか。

○分科会長（針谷正夫君） 秋間商工振興課長。

○商工振興課長（秋間広行君） お答えします。

実は、今日も夜、そちらの説明会を、県の土木事務所と一緒にやってくるわけなのですけれども、まず今回のこの予算については、あくまでもアーケード撤去のみでございます。当然ながら電線地中化というのもその目的の中に入っていますので、県のほうではまずアーケードを取らないと実際工事にも入れませんので、そちらを今の銀座通り商店街の方と昨年から協議を交わして、やっと合意形成が図られてきまして、かつ国の事業も導入、採択になるかどうかは分かりませんが、採択ができれば事業費の3分の2は補助ができるということでございますので、当然ながら景観はよくなる。あとは地中化になって、そもそもガードレールそのものが見てのとおり古いものですから、実際もう壊れている部分もございますので、安全性が確保できないと。そういうものをトータルの考えれば、すごく我々も県と一緒にこの地中化のほうは、併せてというか、ガードレールが

取れば当然入っていきける、そういう仕組みで今、県のほうと調整してやってございます。

○分科会長（針谷正夫君） 広瀬委員。

○委員（広瀬義明君） そうなのですね。実は、あそこのアーケードを撤去する、電線地中化が行われる。ご存じのとおり、あの通りの建物は結構年季の入った建物が多うございまして、持ち主の中には、今回の工事があることからその建物の使用をやめようと。中には、そこを借りている方にこういった工事が始まったらもう辞めようと思うので、違うところに移っていただきたい旨の話が出ているところもございまして。

そういったマイナス要素といったものも生まれかねないところなのですが、その辺、市のほうで聞き取りなり何かなり行って、本当の市民の方のご意見というのを承っていただきたいと思うのですが、今日もそういった説明会があるということで答弁いただきました。その中で10年後、20年後、あそこの銀座通りがどうなっているのかといったビジョンを本当に示していただきたいと思うのですが、ビジョンといいますか、あの地域の将来像というのを市民の皆様へお示しができるものは何かあるのでしょうか。

○分科会長（針谷正夫君） 秋間商工振興課長。

○商工振興課長（秋間広行君） お示しというか、まちづくりの視点から銀座通り商店街の方々と一緒に、どういう将来像があるかというものをまさに都市計画課とか市の蔵の街課とか関係各課が入りまして、そのビジョンづくりにいろんなところも視察とかしまして、あの地域にはどういいうものがいいかというものをまさにこれからつくり出していくというスタートを切っているような状況ですので、地域の方と一緒に行政のほうも入ってやっていくというのが、今のところの答えでございます。

○分科会長（針谷正夫君） 広瀬委員。

○委員（広瀬義明君） やはり今の商店街というのは、存続すること自体が難しい中で、頑張る方は頑張っていていらっしゃる。そういった方々を支える一助として行政からの支援、手助けというものがあれば、やはり心強いのは間違いない。その中で、できる限りの支えというものを行政で示していただきたいと要望させていただきたいと思っております。

○分科会長（針谷正夫君） 白石委員。

○委員（白石幹男君） 関連で。これは私もやろうかなと思っていたところなのですが。

○分科会長（針谷正夫君） では、関連ということでお願いします。

○委員（白石幹男君） はい。ある程度聞いてもらったのでいいのですが、みつわ通りも含めてそういった商店街、みつわ通りもかなりもう寂れている状況で、我々が学生の頃はあそこら辺が一番栄えていて、駅からずっといい状況だったのだけれども、その点あたりもやっぱり含めた形の何か考えなければいけないのかなと思うのですが、いかがでしょうか。

○分科会長（針谷正夫君） 秋間商工振興課長。

○商工振興課長（秋間広行君） なかなか難しいところはあるかと思うのですけれども、一つ一つその辺の課題を、まずは銀座通り、それと含めながらみつわ通りのほうもどういうエリアが一番いいのか、これからどうやっていくのか、ましてや商店街の人たちなんか自分の後継者もやっぱり心配していますので、今度新たな人を入れる、いわゆる大家さんみたいになって若い人を入れるとか、いろいろな考えがございますので、そういうのもみつわ通りのほうに波及ができるように働きかけのほうは一歩ずつですか、やっていきたいと思います。

ちなみに、私、今日、写真持ってきたのですけれども、これが旧のアーケードができる前の写真で、やっぱり人なんかすごくいて、聞いたら火事があった、昭和37年にあそこを設置したということで話は聞きました。古い写真があったので、今日は持ってきましたけれども。

〔何事か呼ぶ者あり〕

○商工振興課長（秋間広行君） アーケードができる前の写真です、これは。

○分科会長（針谷正夫君） 課長にありがとうございました。

白石委員。

○委員（白石幹男君） 戻りますけれども239で、これは確認だけしておきますけれども、県南卸売市場の負担金というのがかなり来年度増えているのですけれども、これはどういった理由なのでしょう。

○分科会長（針谷正夫君） 櫻井農業振興課長。

○農業振興課長（櫻井 茂君） 本年度が1,540万円ほどで、昨年が1,200万円ほどですので、失礼しました。昨年は300万円ほどですね。すみません、ちょっと後刻調べてちょっと。

○分科会長（針谷正夫君） お願いします。

○農業振興課長（櫻井 茂君） 失礼しました。施設の更新の費用が増額となっております。全体の委託料が5,300万円ほどありまして、そのうち栃木市で29.09%持ちますので、1,500万円という形になっております。

○分科会長（針谷正夫君） 白石委員。

○委員（白石幹男君） 民営化になっているのですけれども、その施設については広域のあれで持っていて、その更新費用というのは2市2町ぐらいで持つということですか。

○分科会長（針谷正夫君） 櫻井農業振興課長。

○農業振興課長（櫻井 茂君） 施設は3市2町で所有して、運営は民間会社が、荒井商事がやっていますが、その基本財産の管理運営は、基本的には3市2町が修繕とかはするという形になっておりますので、その維持に係る費用となります。

以上です。

○分科会長（針谷正夫君） よろしいですか。ほかに。

白石委員。

○委員（白石幹男君） 了解です。

あと、249ページ、林業のほうで……

○分科会長（針谷正夫君） 249ページ。

○委員（白石幹男君） はい。一番下の段だ、林道整備事業。これ片角観音入改修で、設計と工事費が入っているのですけれども、この事業の内容をお願いします。

○分科会長（針谷正夫君） 石塚農林整備課長。

○農林整備課長（石塚昌平君） 今回、令和3年度に改良工事ということで片角観音入、特に今回は観音入側の延長370メートルを改良工事する計画でございまして、いわゆるこれは令和元年の台風19号のある程度破損をしている路面を改良して、通行に支障のないような工事を行うというのが内容となっております。片角観音入を出流ふれあいの森のほうから満願寺のほうまで、観音入側まで1周約10キロ通過できます。平成10年ぐらいまでに全線舗装が終わっている状況でございまして、それら元どおりにする工事としてのまず第一歩ということで考えております。

以上です。

○分科会長（針谷正夫君） 白石委員。

○委員（白石幹男君） 先日一般質問で、出流山の奥の院というか、その上を通っているのです。今後、その奥の院をどうするかというのは県と協議しながらやっていくのだろうけれども、重機が入らないとか何とか言っていましたけれども、ここを整備すればある程度重機とか入っていくのではないかと思うのだけれども、どうなのでしょう。

○分科会長（針谷正夫君） 石塚農林整備課長。

○農林整備課長（石塚昌平君） 現場を御覧いただくとお分かりになると思いますけれども、観音入側、特に奥の院のところは急勾配の山なのです。ここの林道を整備したからといって、奥の院に入れることは絶対にないです。参道はやはり満願寺側、敷地側から整備をしなければ、林道から下りていくというともう一本林道を造るようなことになりますので、景観を全部壊すことになりますから、ちょっと不可能だと思えます。

以上です。

○分科会長（針谷正夫君） ほかに。

白石委員。

○委員（白石幹男君） あそこで生まれ育ったものだから、ある程度は分かっていたのだけれども、何か入れそうな感じはしたのですけれども、分かりました。

○委員（白石幹男君） では、次。いいですか、次やって。

○分科会長（針谷正夫君） いや、もうなければ次に移りたいと思います。

○委員（白石幹男君） まだ。255ページです。制度融資関係で、中小企業向け資金融資預託金、そこが一番増えているのか。コロナウイルス対策ということでありますけれども、これはどの程度の

件数というのですか、見込んでいるのでしょうか。

○分科会長（針谷正夫君） 秋間商工振興課長。

○商工振興課長（秋間広行君） すみません、中小企業向け資金融資預託金でよろしいわけですか、今のご質問。

〔「はい」と呼ぶ者あり〕

○商工振興課長（秋間広行君） そこは、既存の債務残高分の預託がございまして、それが約300件で、融資枠が19億円ぐらい設けて、それで新規分は新たに大体200件ぐらい、通常ですとコロナウイルスがなければ、この制度融資を使うのが結構多いのですけれども、今コロナウイルス関連の制度融資が、その上に中小企業緊急景気というのもございますので、そちらを使っている方が多いので、実際新規分で200件で、大体12億円ぐらいの融資枠が設けられるのかなということで、預託金をこの19億7,400万円の預託を出して、その3倍が最低融資枠になりますので、そんなところで今考えてございます。

○分科会長（針谷正夫君） 白石委員。

○委員（白石幹男君） では、その上の緊急景気対策のほうがコロナウイルス対策というか、そっちが中心ということなのですね。

○分科会長（針谷正夫君） 秋間商工振興課長。

○商工振興課長（秋間広行君） すみません。ちょっと今言った金額が中小企業緊急景気で、先ほど中小企業向け資金のほうは債務残高分が1,100件で大体40億円ぐらいの融資枠、それで新規が215件で大体19億円、そして中小企業緊急景気対策特別資金のほうは、この預託金で債務残高分が300件で19億円、そして新規分が200件で12億円の融資枠が設けられると。ある程度なのであれなのですけれども、その程度見込んでいます。

○分科会長（針谷正夫君） 白石委員。

○委員（白石幹男君） これは下のほうにも利子補助金というのがあるので、これは結局最終的に無利子で借りられるということなのですか。

○分科会長（針谷正夫君） 秋間商工振興課長。

○商工振興課長（秋間広行君） 今年度分の新規が、まだ無利子までの制度設計はできていませんが、やはり今年度分についても市の制度融資使った場合は、まだコロナが収束に向かっていないので、できるならば第3次のコロナウイルス対応で利子補給分を臨時議会があればそちらのほうに盛り込んでいきたいなということで、当初の予算の中では、昨年借りた分は利子補助は設けていますけれども、今年度分借りた分については、すみません、令和3年度緊急景気を使った場合の利子補助は新年度予算の中にはまだ設けていません。

〔「やる予定」と呼ぶ者あり〕

○商工振興課長（秋間広行君） やる予定で、今、誠意努力しているところです。

○分科会長（針谷正夫君） よろしいですか。

白石委員。

○委員（白石幹男君） では、分かりました。大変な状況なので、ぜひ全力を挙げていただきたいなと思います。

このページで、255ページで下から4番目かな、オフィス移転等支援補助事業費がありますけれども、まずこれの内容ですけれども、伺いたいと思います。

○分科会長（針谷正夫君） 秋間商工振興課長。

○商工振興課長（秋間広行君） この事業についても令和2年度の10月補正で盛り込んだ事業でございますが、具体的には県内にまず本社がないこと、そして本社機能を栃木市に持ってくる会社に対して、そして栃木市に事務所を新しく県外から造る場合で、本社機能を移転する場合は限度額が300万円、栃木市に事務所を新設する場合は限度額が200万円、どういうものを補助するかといいますと、設備工事、いわゆる通信設備とか空調設備、あと、いわゆる店舗を借りた場合の内装とか、あとは今度看板設置、あと駐車場が必要なときは駐車場整備、そういうものを限度額を設けて支援しまして、コロナ禍で栃木市に事務所を持ってきたという事業者も、今年も令和2年度事業やっていますけれども、1件東京都のほうからこちらのほうに3月末で来る事業者が決まりましたので、相談も結構受けてございますので、最低限の予算ですけれども、令和3年度は予算措置を図ろうということで計上したところでございます。

○分科会長（針谷正夫君） 白石委員。

○委員（白石幹男君） なかなか件数が厳しい状況でしょうけれども、そのPRというのですか、やっぱり東京かな、そこら辺でPRしないと広がっていかないのかなと思いますけれども、そこら辺はどうなのですか。

○分科会長（針谷正夫君） 秋間商工振興課長。

○商工振興課長（秋間広行君） 実は令和2年度は、東京PRというか、インターネット広告のほうに出しまして、実際そこでホームページが閲覧された回数まで分かるのですけれども、2,000件ほど閲覧していただいて、そのうちの1件が契約にたどり着いたという形になってございまして、やはりまずネットで栃木市のこういう制度を知らしめるというのがまず重要かなとは思っています。また、県の東京事務所とか使えるところは、東京圏ですから使える媒体とか使える事務所、そういうところにはチラシとかそういうものを配りながら、栃木市のよさも魅力もPRしながら、ミニチュア版企業誘致かもしれませんけれども、そういうものを積極的に図っていくというところでございます。

○分科会長（針谷正夫君） 白石委員。

○委員（白石幹男君） 最後にします。別なところで、257ページで蔵の街観光館管理運営、12月議会でも問題になった部分ですけれども、この地域住民との話合いというのは進んでいるのですか。

○分科会長（針谷正夫君） 糸井観光振興課長。

○観光振興課長（糸井孝王君） 蔵の街観光館の多目的ホールの利用廃止に伴って、今お話が出ていました255ページのほうのオフィス移転等支援補助事業費と連動して、その補助事業を対象にオフィス移転を考えている人の選択肢の一つとして多目的ホールの利用、事務所としての利用を進めていければということで、12月議会で多目的ホールの利用の廃止の条例案を出させていただいたのですが、条件つきがついたということで、12月議会の後に、まず要望書を出してきていただいていた団体については代表者の方とお話をさせていただきました、まず2月をもって事務所のほうに貸し出すということはまだしないですよと、合意形成を図ってから貸出しをいたしますということで、まずは誤解を解くというのではないのですけれども、その辺のお話をさせていただきました。

その中で団体によっては、お酒を扱ったイベントなどを開くときに、新しくできました学習館のほうではお酒を飲むというのができないので、そういう代替の施設があったほうがいいのだけれどもというようなお話をいただきましたので、まずはそういった今まで利用していた方の要望をクリアしていきながら、合意形成に持っていきたいなというふうには考えております。

以上でございます。

○分科会長（針谷正夫君） よろしいですか。

広瀬委員。

○委員（広瀬義明君） 257ページ、一番上です。プラッツおおひら管理運営委託事業費でございます。予算額といたしましては1,300万円ちょっとということで、今年度とほぼ同額でございます。中身についてお伺いする前に、この事業、実は本年度の予算書においては7款1項4目観光費で上がっていたものが、なぜか今回、商業振興費のほうで上がっておりまして、まず、なぜ目のほうが変わったのか、ちょっとその辺の説明からお伺いしたいと思います。これは田中課長でいいのかな。

○分科会長（針谷正夫君） 田中大平産業振興課長。

○大平産業振興課長（田中典行君） お答えいたします。

予算の目の変更につきましては、多分というちょっと変な表現になってしまいますが、この4月で組織改編がございまして、各産業振興課が本庁に集約されるというような流れがございまして、そういったことで各支所で持っていました事業が、それぞれの本庁の科目のほうに集約といたしますか、されるような形になった中で、この目に変更になったものではないかというふうに承知しております。

以上です。

○分科会長（針谷正夫君） 広瀬委員。

○委員（広瀬義明君） いや、なったのではないかと承知しているということは、担当所管であった課長が、まだそこら辺の把握というのができていなかったということなのではないでしょうか。

○分科会長（針谷正夫君） 田中大平産業振興課長。

○大平産業振興課長（田中典行君） 大変申し訳ございません。今、議員からご指摘いただいて科目

のほうを認識したところでございます。大変申し訳ございません。

○分科会長（針谷正夫君） 広瀬委員。

○委員（広瀬義明君） 所管担当が変わるとそういったこともあるのかと思えば、大本は産業振興のほうで所管していたはずでございますので、その辺についてはほかにも心当たりがたくさんございます。何せ観光行事負担金なんかも思いっきり変わっておりますので、その点については結構なのですけれども、プラッツおおひら管理運営委託事業費、昨年とほぼ同額だと申し上げました。今年度コロナ禍において、ほぼ何のイベントも行われていないまま予算だけが執行されているわけでございますけれども、来年度もまだコロナの影響は当然ながら受けるかと思うのですが、従来どおりイベントのないまま終わるプラッツおおひらということで、認識でよろしいのでしょうか。

○分科会長（針谷正夫君） 田中大平産業振興課長。

○大平産業振興課長（田中典行君） お答えいたします。

まず、来年度、令和3年度の予算額につきましては、平成30年から指定管理5か年ということになっておりますので、金額については同額が計上されているのが状況でございます。

それから、委員ご指摘のありました各指定管理者におきますイベント、自主事業といったところでございますが、確かに昨年からコロナの影響がありまして、自主事業的なもの、人が集まるイベント的なものがなかなか実施できない状況は事実でございます。一応施設の収益、貸し館という部分もございますので、その辺の減額、利用者の方が減ったことによる減額といったところもございますので、この指定管理料につきましては同額を計上させていただいて、イベントがなかなか実施できない中ではありますけれども、同額を計上させていただいたというところでございます。

以上です。

○分科会長（針谷正夫君） 広瀬委員。

○委員（広瀬義明君） 昨年、イベントが行われていない。これはコロナ禍においてイベントが行われていないというふうに申し上げておりますけれども、現在の指定管理が業務を行うようになってから、イベントというイベントがほとんどございませぬ。イベントをやっていた前の指定管理者と比較するわけではございませぬけれども、地域住民の間からは存在価値がもうなくなっているという声が広く伝わっておりまして、光と音のページェントが12月から翌1月まで毎年開催されておりますが、あれ自体はプラッツおおひらの事業ではないと。であるならば、大平の情報発信基地、そして今回、商工業の商工振興のほうの目で計上されているプラッツおおひらが、果たしてこのままの状態でもいいのかどうか。課長も、何せ課長の席の扉を隔てて後ろ側はプラッツおおひらでございますので、何かと心を痛めているのも分かりますけれども、この状況を何とか打破するようなプラッツおおひら指定管理、大高商事との打合せというのは行われているのでしょうか。

○分科会長（針谷正夫君） 田中大平産業振興課長。

○大平産業振興課長（田中典行君） お答えいたします。

まず、指定管理者、大高商事との打合せにつきましては、定期的に館の運営にチーフマネージャーが常駐しておりますので、そのチーフマネージャーとの間で逐一協議、その辺の調整については行っているのが状況でございます。

このプラッツおおひら、前の指定管理者から4年前に変わりました、確かに今回の大高商事、指定管理者になっていただいておりますが、なかなか自主事業含めイベント的なものが不足しているというのは私どもも認識しているところで、特に夏にサマーフェスティバルなんかは新しい大高商事の指定管理者であっても実施はしていたのですが、なかなかそれもコロナの関係で去年なんかは中止であったりとかというのが事実でありますので、今後につきましては人集めのイベント、そういったものとかが実施できるように、こちら市のほうからも指導しながら、よりよい施設運営ができますように指導してまいりたいと思います。

以上です。

○分科会長（針谷正夫君） 広瀬委員。

○委員（広瀬義明君） 実は人集めのイベントをしたいという団体が、プラッツおおひらに申し入れたら断られたと。コロナ騒ぎがあるので、責任が生じるようなことはしたくないというところが市との協議にのるかどうかは、私はクエスチョンがつくところでございますけれども、まだ指定管理としての契約年数が残っているとは言っても、失敗であるということがこれだけ明らかになっている以上は、何らか手段を講じていただかないと、地域住民の方からは、それこそ大きな声での問題提起となりかねないということだけは、お伝えをさせていただきたいと思います。

続けてよろしいでしょうか。

○分科会長（針谷正夫君） はい。

○委員（広瀬義明君） 次の質問に入らせていただきます。先ほどちょこっとお話をさせていただきましたけれども、観光行事負担金というものが259ページ、上から8行目か9行目ぐらいに載っております。今回、1,400万円が計上されておまして、なつこいと渡良瀬バルーンレースがその内容として掲載されておりますが、昨年度までは大平ですと光と音のページェント、もしくは都賀のまるまるまるごとつがまつり、つがの里花まつり、西方のふるさとまつり、岩舟の夏まつりなど入ってございました。多分これも組織変更に伴う所管変更になっている影響だと思っておりますけれども、ここで残っているのがなつこいと渡良瀬バルーンレースということなのですけれども、私、なつこいはどちらかという地域振興に資する意味合いが強いのではないかと思うのですけれども、なぜなつこいはこちらに残ったのでしょうか。

○分科会長（針谷正夫君） 田中大平産業振興課長。

○大平産業振興課長（田中典行君） お答えいたします。

このなつこいにつきましては、合併前の旧大平町からスタートしたイベントでございます。そんな経緯がありまして、会場につきましては、これまで合併後におきましても大平の運動公園内を会

場として実施をさせていただいております。ただ、合併以降、そのなつこいを運営している実行委員会の会員の皆様からのご意見ということがありまして、その中で出た意見と申しますのは、失礼しました。なつこいのサブタイトルが、これまでは「Sound Stage OHIRA」という名称だったのです。それが、たしか私が来てからなので、5年ほど前でしょうか、「Sound Stage TOCHIGI」というふうに名称を変更させていただきました。というのが実行委員会の委員さん方からの意見で合併をしまして、大平のイベントという限定なものではないよねという意見が多数ございました。

その中で、これはもう合併した新市、新栃木市のイベントとして定着させて盛り上げていかなければいけないというところで、サブタイトル栃木というふうに名称を変更させていただいたというような経緯もございまして、今回、各産業振興課が組織再編で本庁に集約されるといった協議の中で、このなつこいにつきましては本庁に集約させていただいて、市のイベントとして、今後、もっと盛大に運営していただければということで調整が済みまして、本庁のほうに集約をさせていただいたという経緯でございます。

以上です。

○分科会長（針谷正夫君） 広瀬委員。

○委員（広瀬義明君） 実は、このなつこいですとかそういったものを開催するとき、協賛金ということで地域の方々から寄附を集めるパターンというのが非常に多いのですけれども、なつこいというのは昔ながら地域の方々、若いやつらが頑張っているのだからということで漫然と寄附金を出し続けている。では、実働部隊のほうでそういったご意見が出て、あまり地元ではなくて、大平のみのイベントではないと話がなってしまうと、今度は昔ながら支援していた方々から疎遠になる可能性が出てくるような気もするのです。実際そういう話もありまして、事後報告もなければ、終わった後のお礼めいた礼状一つ来ないのだと。もらうのが当たり前になっているのかねなんて話が出ているのも事実でございます。

そういったことを考えますと、やはり地元あつてのイベント、地元から発生したイベントという意識を絶やすことのないようなやり方をお願いしたいなと思うところでございますが、これはやはり行政も深く関わっているイベントでございますし、特に大平の産振課は、なつこいとなりますと職員総出、産振のみならず、多くの職員総出でイベントの成功に向かって努力しているのをずっと見ておりますので、職員の皆様からも地元の意識を減らすことのないように一緒に働いていただきたいと思っておりますので、田中課長、本庁集約になる前に、その辺の話はきちんと伝えていただければと思いますので、よろしく申し上げます。

○分科会長（針谷正夫君） 要望でよろしいですか。

○委員（広瀬義明君） はい。

○分科会長（針谷正夫君） ほかにあるでしょうか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○分科会長（針谷正夫君） それでは、ないようですので、産業振興部、農業委員会事務局所管の質疑を終了いたします。

ここで議事の終了した執行部の皆様は退席していただいて結構です。お疲れさまでした。

執行部の入替えを行いますので、少しお待ち願います。

暫時休憩いたします。

（午後 4時04分）

---

○分科会長（針谷正夫君） 休憩前に引き続き会議を開きます。

（午後 4時20分）

---

○分科会長（針谷正夫君） 次に、教育部所管の歳入歳出等を一括した質疑に入ります。

なお、質疑に際しましては、分科会説明表の教育部を御覧の上、所管部分をご確認いただき質疑をお願いいたします。

質疑はありませんか。

小久保副分科会長。

○副分科会長（小久保かおる君） 305ページの外国人児童生徒指導事業費というのがあるのですが、去年の予算額が28万円で、今回、増えている要因は外国人の子供が増えているという理解でよろしいのでしょうか。

○分科会長（針谷正夫君） 大阿久学校教育課長。

○参事兼学校教育課長（大阿久 敦君） ただいまのご質問でございますが、今回、外国人への指導については、ご存じのとおり2つの日本語教室ということで設置しておりまして、そこに今まで市単独での2人の指導員ということで入っていただいたわけですが、県からの事業ということがここに入ってきてまして、実際そこに今回からは日本語指導サポーターという職、それから母語支援員、つまりそれぞれの外国の言葉を基にしたしゃべりができる方ということでのそういった人的な支援ということで、その配置が増えたものですから、この額になっているという状況でございます。

○分科会長（針谷正夫君） 小久保副分科会長。

○副分科会長（小久保かおる君） では、全部で講師の方は、何名で教えてくださっているのでしょうか。

○分科会長（針谷正夫君） 大阿久学校教育課長。

○参事兼学校教育課長（大阿久 敦君） では、もともと配置しております2人以外に、日本語サポーターということで15名を想定しております。また、母語支援員ということで5名の方を想定しております。

〔「すみません、聞き逃してしまって。何名でしょうか、日本語を  
教えている方が」と呼ぶ者あり〕

○参事兼学校教育課長（大阿久 敦君） 日本語指導サポーターという方が、15名を想定しております。

○副分科会長（小久保かおる君） すみません、母語をサポートしている先生というのは多國の方なのですか、いろいろな。

○分科会長（針谷正夫君） 大阿久学校教育課長。

○参事兼学校教育課長（大阿久 敦君） それぞれの国のもともとの籍を持っている方でございます。

○分科会長（針谷正夫君） よろしいですか。

坂東委員。

○委員（坂東一敏君） 305ページ、小中学校統廃合の事務費についてお伺いします。藤岡第一中学校と第二中学校の統合について、現在どのような状況になっているかお聞きしたいのですが。

○分科会長（針谷正夫君） 江面教育総務課長。

○教育総務課長（江面健太郎君） 藤岡第一中と藤岡第二中の統合準備会の現在の活動状況ということでお答え申し上げますと、現在、新しい統合中である藤岡中学校の校章、こちらを3案ほど、3つの案……

○分科会長（針谷正夫君） すみません、マイクにちょっと近づけてお話しいただければ。

○教育総務課長（江面健太郎君） 校章の案を3つほど作りまして、そちらの3つから1つに校章を決定するというので、今、コロナの関係で書面による1つの案にするための投票を行っていただいております、間もなく決まる予定でございます。

それと、現在、校歌につきまして作詞、作曲の方をお願いをいたしまして、本年12月を目途に完成していただくということで進めてございます。

それと、スクールバスにつきましては、統合準備会を昨年の12月17日に開催いたしまして、そちらでスクールバスの運行経路の案というものを固めております。そちらを部屋地区にお住まいの保護者の皆様全員に案をお配りしまして、お示しをさせていただいたといったところでございます。

○分科会長（針谷正夫君） 坂東委員。

○委員（坂東一敏君） この統廃合に関して、私、4年ぐらい前かな、ちょっといろいろと要望、皆さんの意見を聞きに行ったことがございます。ましてそのときに、いろいろ……

○分科会長（針谷正夫君） 坂東委員、すみません、マイク……

○委員（坂東一敏君） ごめんなさい。そのときに、なかなか両校がうまくお話しできない点があったのですが、今回そのようにできたということは、私もよかったなと思っています。なので、生徒と保護者、先生、地域の方々の十分なあれを聞いて進めていくことを私は要望しますので、よろしくお願ひいたします。

○分科会長（針谷正夫君） 松本委員。

○委員（松本喜一君） 319ページ、東陽中学校施設整備事業費ということで、やっと予算つけていただきました。ありがとうございます。この整備、武道館だと思うのですけれども、どのくらいの平米数を考えているのか、お聞かせ願いたいと思います。

○分科会長（針谷正夫君） 柿沼学校施設課長。

○学校施設課長（柿沼宏和君） まず、来年設計に当たりまして学校と協議中なのですけれども、東中、西中なんかは剣道の試合1コート分、そして南中につきましては2コート分できる、そういったもので整備してきました。今のところ東陽中につきましては、できるだけ広いというような中で南中同等、それかそれ以上ということで考えております。

○分科会長（針谷正夫君） 松本委員。

○委員（松本喜一君） 実は、東陽中学校は旧栃木市でも一番マンモス、合併しても一番マンモス校なのです。現在、あした卒業式ですけれども、新生が入ると剣道でも二十何名、卓球だと50名からの部活をやるのです。今の武道場は解体というけれども、これは武道場ではなくて仮設教室を、私もボランティアで2回ぐらい貼り替えやったのです、上に貼って。物すごく生徒が多いので、できればさっき言った20名と、卓球50名以上の生徒ができるようなスペースを造ってほしい。卓球であればもう10台ぐらいの卓球台が置ける、剣道でもやっぱり20名ちょっとと一緒にできるような平米数欲しいのですけれども、どうでしょうか。

○分科会長（針谷正夫君） 柿沼学校施設課長。

○学校施設課長（柿沼宏和君） これにつきましては、学校側と十分話をしているところでございまして、学校としても武道場、そして卓球、あとはちょっと大きい学校なので、今のやっている中で学年集会、そういったものもできる広さでということで要望がありまして、できるだけ添えるような形で今進めているところでございます。

○分科会長（針谷正夫君） 松本委員。

○委員（松本喜一君） 最後に要望でいいのですけれども、武道場というと天井そんなに高くないのですけれども、例えばバドミントンでも何でもできるように多少天井も高めに造っていただければ、いろんな面で多目的に使えるのかなと思いますので、よろしくお願ひしたいと思います。要望です。

○分科会長（針谷正夫君） ほかに質疑はありませんか。

広瀬委員。

○委員（広瀬義明君） 311ページ、下のほうです。小学校コンピューター管理費、関連しまして317ページの中学校コンピューター管理費、同様の中身で質問させていただきたいと思います。教育用コンピューター保守管理委託料についてなののですけれども、これ今年度の予算ですと434万円ということで49万5,000円減っております。利率にしますと12%。中学校もコンピューター管理費の保守管理委託料については、本年度予算は184万7,000円ということで79万1,000円の減、パーセンテージ

ジにすると43%減っているわけでございます。コンピューター管理費全体でいいますと、もう非常に増額されている中で、この保守管理委託料が随分減少している。その理由は何なのでしょう。

○分科会長（針谷正夫君） 柿沼学校施設課長。

○学校施設課長（柿沼宏和君） 今、G I G Aスクール、これを進めている中で、今まで小学校、中学校、コンピューター室にパソコンを置いていたわけですが、特に小学校につきましてはパソコン室のパソコン、これについては再リースはしない、そういう方向で今のところ進んでおります。ですから、来年リース契約をする都賀地域について、参考なのですが、その保守管理が減っているところでございます。

○分科会長（針谷正夫君） 広瀬委員。

○委員（広瀬義明君） 確認をさせていただきますが、そうしましたら小中学校におけるコンピューター、現在、今まで使っていらっしゃったものがなくなるという認識でよろしいのでしょうか、全部ではないのでしょうかけれども。

○分科会長（針谷正夫君） 柿沼学校施設課長。

○学校施設課長（柿沼宏和君） 中学については性能がいい、中学校もそういったものを使うということで中学校は残す、小学校についてはなくしていくという方向でございます。

○分科会長（針谷正夫君） 広瀬委員。

○委員（広瀬義明君） これは私の経験則に基づいて話をさせていただきますと、コンピューターはコンピューター、モバイルはモバイルということで、似て非なるものという感覚で私は使用しております。やはりパーソナルコンピューター、パソコンと言われるものは大小様々ありますけれども、基本的にはキーボードによる入力というものをやはり指が覚えることによって早い入力ができる。これは小さい頃からやればやるほど非常に有効な手段であると私は考えておりますけれども、ただでさえモバイルの導入によりまして、そっちへの移行というのが強くなる。つまりはスマホに近いモバイルの多用が予想されるわけですから、そうしましたらやはりキーボード入力というものも別に考えて併用していくのがいいのではないかと思います、そのような形でレンタルというものはなくしていくというのは、もう決定事項ということでよろしいのでしょうか。

○分科会長（針谷正夫君） 柿沼学校施設課長。

○学校施設課長（柿沼宏和君） この利用については、一応小学校ということでとどめたわけなのですが、今委員おっしゃいましたキーボードにつきましては、今回、G I G Aスクールで入れる端末機、それについても国のほうの基準がキーボード付きにしないということで、これはキーボードついております。

○分科会長（針谷正夫君） 広瀬委員。

○委員（広瀬義明君） キーボード付きですか。なるほど。我々議会は自分でキーボードを買って苦労してやっておりますけれども、子供がうらやましいといえますか。ただ、その小学校のほうはな

くすという意向だということでございましたけれども、中学校においても43%もの保守管理委託料が減っていると。では、小学校はそういったことで既存のパソコンが減るから保守管理委託料も減るのだよということになります。では、中学校のほうが43%という大幅減になっている理由について、もう一度伺います。

○分科会長（針谷正夫君） 柿沼学校施設課長。

○学校施設課長（柿沼宏和君） こちらのリース期間が決まっているのですけれども、中学校につきまして今回、再リースというものが多くなっております。リース期間5年と決めまして、これまだ使えるからもう一回ちょっと延ばしてよ、そういった場合には保守関係は安くなりますので、再リースが多くなってきます。

○分科会長（針谷正夫君） 広瀬委員。

○委員（広瀬義明君） 再リースになると保守点検料が安くなるということですが、リース契約内容は変わらないのでしょうか。それとも5年経過した製品ということで、ある程度の破損、故障については使用者による修理等ということで、契約内容が変わってくるものなのでしょうか。

○分科会長（針谷正夫君） 柿沼学校施設課長。

○学校施設課長（柿沼宏和君） リース期間中なのですが、こちらについては保守を見る、再リースの場合は別途保守が必要ということで、リース期間と再リース、それで保守料がちょっと変わってきます。

○分科会長（針谷正夫君） 広瀬委員。

○委員（広瀬義明君） 柿沼課長、申し訳ございませんが、もう一度ちょっと分かりやすく説明をお願いしてよろしいでしょうか。

○分科会長（針谷正夫君） ゆっくりで結構です。

○学校施設課長（柿沼宏和君） まず、リース期間、こちらにつきましては、そちらで保守を見る、見てくれる。

〔「そちらでと言わずに、学校側でという」と呼ぶ者あり〕

○学校施設課長（柿沼宏和君） リース業者のほうですね、すみません。そして、再リースの場合には別途保守が必要。すみません、先ほどちょっと説明が違ってしまったのですけれども、令和3年度につきましては再リースが少ないので、保守が少なくなります。再リースが少ないという、リース自体はその分保守を見てくれているので、今回の再リースが少ないということは、そちらで全部見てくれ、リース会社のほうで見てくれるということで減っております。すみません、ちょっと説明が下手で。

○分科会長（針谷正夫君） 広瀬委員。

○委員（広瀬義明君） 先ほどの説明で、中学校で使用しているコンピューターについては、比較的まだいいものがそろっているという答弁が当初ありましたので、それで何となく分かったつもりで、

次の質問に移っていいですか。

○分科会長（針谷正夫君） はい、どうぞ。

○委員（広瀬義明君） 313ページの一番下に、大型バス等運転手報酬というのがございます。そのほかにも319ページにも、大型バス等運転手報酬というものがございます。この目途と人数についてお伺いをしたいと思います。

○分科会長（針谷正夫君） 柿沼学校施設課長。

○学校施設課長（柿沼宏和君） こちらの大型バスの運転手報酬ということで、まずスクールバスの運転手、再任用職員1名、あと会計年度職員5名でスクールバスの運転をしております。そして、そちらの報酬なのですが、寺尾小学校、部屋小学校、赤津小学校、こちらにつきましての運転手の報酬、あと時間外勤務の報酬と期末手当となっております。

○分科会長（針谷正夫君） 広瀬委員。

○委員（広瀬義明君） 何か非常に分かりづらい説明で、いまいち分からなかったのですが、スクールバスドライバーが1名、会計年度職員が1名、全部で5名ということなのですか。

〔「6名です」と呼ぶ者あり〕

○委員（広瀬義明君） 6名。

〔「はい」と呼ぶ者あり〕

○分科会長（針谷正夫君） では、すみません、もう一度。何が1名で、何が5名になるのでしょうか。

○学校施設課長（柿沼宏和君） すみません。再任用職員の運転手、こちらが岩舟中なのですが、1名です。あと会計年度職員による運転が寺尾小学校、こちらが2名、あと部屋小が1名、赤津小が1名となっております。

○分科会長（針谷正夫君） 広瀬委員。

○委員（広瀬義明君） 先ほど申し上げた313ページ、そして319ページにある大型バス等運転手報酬と、315ページ上の事業で小野寺小学校のスクールバス運転業務委託費ということで項目が分かれてございます。この項目を分けた理由は何なのでしょう。

○分科会長（針谷正夫君） 柿沼学校施設課長。

○学校施設課長（柿沼宏和君） こちらにつきましては、前のページ、313ページにつきましては運転手報酬ということで、市の職員によるスクールバスの運転となっております。

そして、すみません、315ページのスクールバス運転業務委託、こちらにつきましては別会社、バス会社、TCBなのですけれども、そちらにスクールバスの運転をお願いしているということで分けております。

○分科会長（針谷正夫君） 広瀬委員。

○委員（広瀬義明君） 大型バス等運転手報酬が市職員ということでございましたけれども、市職員

ということであれば報酬という書き方は、これは正しいのでしょうか。

○分科会長（針谷正夫君） 柿沼学校施設課長。

○学校施設課長（柿沼宏和君） 会計年度職員につきましては全体で職員課で予算を取っているところ、あとこちらについては学校施設課において予算を取って、会計年度職員を雇っているというか、お願いしているというところで問題ないと思われま。

○分科会長（針谷正夫君） 広瀬委員。

○委員（広瀬義明君） それでは、ちょっと整理をさせていただきます。これ313ページの大型バス等運転手報酬というのは、これは部屋のほうの2名のドライバー、さらに319ページのほうの大型バス運転手さんというのは、これは再任用なのか、会計年度なのか分かりませんが、どのようにこれ人数が割り振りをされているのか。そうか、3名になるのか。319ページにある大型バス等運転手報酬というのは、これは1名分の報酬ということでよろしいのですか。そうすれば313ページの一番下の報酬というのは3名分なのか、そういう認識でよろしいのでしょうか。

○分科会長（針谷正夫君） 柿沼学校施設課長。

○学校施設課長（柿沼宏和君） すみません、失礼しました。ちょっと誤りがあったかと思うのですが、実際この333万6,000円、これにつきましては寺尾小学校スクールバス運転手、部屋小学校、赤津小学校、こちらの3名分となっております。すみません、寺尾につきましては、1人につきましては職員、技能員がやっております。こちらは訂正させていただきます。

○分科会長（針谷正夫君） 広瀬委員。

○委員（広瀬義明君） だんだん分かってまいりましたが、そうしますと315ページのスクールバス運転業務委託料、これはバス会社、TCBさんのほうに委託をされているということですが、これが小野寺小学校のほうを運行されているということですが、これ台数は2台でしたか、1台でしたか。

○分科会長（針谷正夫君） 柿沼学校施設課長。

○学校施設課長（柿沼宏和君） こちらは1台で、帰り2便ということでやっております。

○分科会長（針谷正夫君） よろしいですか。

白石委員。

○委員（白石幹男君） では、またGIGAスクールのほうへ戻りたいと思いますけれども、311ページかな。中学校は別、一緒に聞きますけれども、導入初年度ということでいろいろ先生も大変な状況だと。そういった中で、国のほうの支援策としてGIGAスクールサポーターとか、ICT支援員とか、そういう予算がついていると思うのだけれども、ここのICTのところにはそういった支援員とかサポーターとかというものがいないのだけれども、この点についてはどういうふうになっているのでしょうか。

○分科会長（針谷正夫君） 柿沼学校施設課長。

- 学校施設課長（柿沼宏和君） こちらのG I G Aスクールシステム運用支援事業、委託料なのですが、3,952万7,000円なのですが、こちらにつきましてサポート、そういったものにつきまして国の補助を入れるということで、支援制度、そういったものも含まれているものでございます。
- 分科会長（針谷正夫君） 白石委員。
- 委員（白石幹男君） このシステム運用支援業務委託料の中に、そのG I G Aスクールサポーターの配置の費用も含まれているということでしょうか。
- 分科会長（針谷正夫君） 柿沼学校施設課長。
- 学校施設課長（柿沼宏和君） はい、そういった支援も含まれているということでございます。
- 分科会長（針谷正夫君） 白石委員。
- 委員（白石幹男君） I C T支援員というのもいるのですけれども、4校に1人というような割合みたいなのですが、実際そういったサポーターなり支援員なり、こういった感じで配置になるのでしょうか。
- 分科会長（針谷正夫君） 大阿久学校教育課長。
- 参事兼学校教育課長（大阿久 敦君） そちらは、学校に入られる支援員の方については、そのソフトの業者の方が直接来て学校の教員を支援すると、よく分かっている方が来て支援をしてくださるというような内容になっているかと思えます。
- 分科会長（針谷正夫君） 白石委員。
- 委員（白石幹男君） それは、市のほうの納入業者というか、メーカー側からただで入ってくる、ただというか、こっちから要請して入ってくるの。
- 分科会長（針谷正夫君） 柿沼学校施設課長。
- 学校施設課長（柿沼宏和君） 無償ということではなく有償なのですが、その支援自体が今説明しましたシステム運用支援業務、こちらに入っているということです。
- 分科会長（針谷正夫君） 白石委員。
- 委員（白石幹男君） こちら辺のサポーター制度みたいなものをちょっと研究していただきたいのですが、文科省等含めてそういう制度が何か4校に1人ぐらい配置できるようになっているのですよね。
- 分科会長（針谷正夫君） 質疑ですか、要望。
- 委員（白石幹男君） 要望で。
- 分科会長（針谷正夫君） 要望でということ。
- 委員（白石幹男君） 要望でというか、調べてください。

あと、子供たちの健康被害というか、そういったものも今後、電磁波とか、あとずっとタブレットを見ていると目に悪いとか、そういったことに対しての被害が出ないようなマニュアルというか、タブレットをどういうふうにするかというのが問題になってくると思うのですが、この点に

ついてどうなのでしょう。

○分科会長（針谷正夫君） 大阿久学校教育課長。

○参事兼学校教育課長（大阿久 敦君） ただいまご指摘いただきました件につきましては、開始、つまり4月の時点では、今、こちら学校教育課のほうで作成した注意事項等に従ってやっていただくわけですが、1学期をめぐりに運用方針というものを学校教育課のほうでまとめさせていただきまして、2学期以降、それに従ってGIGAスクール構想のタブレットに対しての学びですとか、使用法ですとか、そういうものをまとめたものを使いまして運用していくというような形にして、その中に健康的な部分も触れておるといことになります。

○分科会長（針谷正夫君） ほかに質疑はありませんか。

白石委員。

○委員（白石幹男君） まだ。1学期中にマニュアルなりそういうものをつくるということで、健康的なものもそこに盛り込んだ形でやるということね。分かりました。

では、別なところ。

○分科会長（針谷正夫君） はい。

○委員（白石幹男君） 就学援助ですけれども……

○分科会長（針谷正夫君） ページ数お願いします。

○委員（白石幹男君） 315の。

○分科会長（針谷正夫君） 315ページです。

○委員（白石幹男君） 就学援助、まず小学校。昨年よりも何か予算的に減っているのですけれども、この点についてはどういうふうになっているのでしょうか。

○分科会長（針谷正夫君） 江面教育総務課長。

○教育総務課長（江面健太郎君） 今回、就学援助につきましては、小学校におきましては6年生の給食費、こちらをこの積算から除いてございますので、その分が減少しているということでございます。

○分科会長（針谷正夫君） 白石委員。

○委員（白石幹男君） 分かりました。

今年度から各項目別の援助の費用とか、何か変わっている部分があると思うのですけれども、例えば調べたところによりますと、修学旅行費が800円ぐらい増になるのだけれども、このインターネットで取った就学援助制度のお知らせには増えていない額が入っているのだけれども、こちら辺はどうなっているのでしょうか。

○分科会長（針谷正夫君） 江面教育総務課長。

○教育総務課長（江面健太郎君） 委員ご指摘のとおり、国のお示した小学校の修学旅行費は2万1,890円から800円ほど金額が上がって2万2,690円ということでのアナウンスがございしますが、こ

ちら本市におきましての予算編成のタイミングの問題ということで、こちらの800円については反映した形ではなくて、従来というか、現在の2万1,890円での積算になったところでございます。

○分科会長（針谷正夫君） 白石委員。

○委員（白石幹男君） ただ、この新しいというか、3月1日から申し込めますよという期間になっているのだけれども、そこのチラシにはそういった額で訂正になっていないので、そこは直さないといけないのかなど。予算も補正で直るかもしれないけれども、そこら辺どうなのでしょう。

○分科会長（針谷正夫君） 江面教育総務課長。

○教育総務課長（江面健太郎君） 国のほうは、そういったことで金額のほうを提示してございますが、本市におきましては、今のところこちらの2万1,890円ということでアナウンスさせていただいているところでございますので、これは正式に国のほうの金額が2万2,690円ということで決まった場合には、それに対応した形で進めてまいりたいと考えております。

○分科会長（針谷正夫君） 白石委員。

○委員（白石幹男君） あと、GIGAスクールが始まるということで、そういった貧困家庭の児童生徒に対してだと思えるのだけれども、オンライン学習通信費というのが、これは従来からあるみたいだけれども、栃木市には援助の項目にはないのだけれども、この点はどうなっていますか。

○分科会長（針谷正夫君） 江面教育総務課長。

○教育総務課長（江面健太郎君） 本市におきましてはオンライン学習通信費につきましては、具体的な援助費目の追加という予定は、今のところはございません。

○分科会長（針谷正夫君） 白石委員。

○委員（白石幹男君） 最終的にはタブレットを持ち帰る、2学期からなるような状況だけれども、就学援助の費用の中にそういった項目があるので、やっぱりそこはやらないといけないのではないかなと思いますけれども、どうなのでしょう。

○分科会長（針谷正夫君） 江面教育総務課長。

○教育総務課長（江面健太郎君） オンライン学習通信費につきましては、国のお示ししている金額ですと小中ともに1万2,000円ということでございまして、こちら900名先の児童生徒の援助費ということでの費目の追加ということになれば、当然財政的な負担も少なくないということもございまして、近隣市の状況も見ますと導入しているというところは今のところございませんので、そういったことも含めまして、必要性、内容等十分制度の趣旨も踏まえまして、引き続き研究してまいりたいと考えております。

○分科会長（針谷正夫君） 白石委員。

○委員（白石幹男君） 研究している暇はないと思うのです、もうGIGAスクール始まるわけですから。そういった点では早期に検討していただきたいと、よろしくお願いします。

○分科会長（針谷正夫君） 松本委員。

○委員（松本喜一君） 315ページなのですけれども、小学校屋内運動場改修事業ということで、これ見ていると1校が設計委託料、寺尾小学校が管理棟改修工事ということで、そうすると年に1棟しかできないのですね、改修。それでいいのでしょうか。

○分科会長（針谷正夫君） 柿沼学校施設課長。

○学校施設課長（柿沼宏和君） これにつきまして、議員の皆様にも長寿命化整備計画ということで、これ1校ずつでは43校ある中でなかなかできない、そういった思いがうちのほうにもあります。なただけ多く予算を要望して、その計画も立てた中で複数の数をやっていければと思っております。

○分科会長（針谷正夫君） 松本委員。

○委員（松本喜一君） この体育館は、恐らく昭和40年後半から50年代に特殊な鉄骨で、下で組み上げて、揚げて造った体育館がほとんどなのです。そうするとみんな老朽化しているのです。私の地元、大宮北小も体育館の床は剥がれたり、とげが刺さっているようにガムテープで収めたり、何年か前に改修をお願いしたのだけれども、全然一向に進んでいないのです。見てもらえば分かるのですけれども、子供たちが運動する場所で、そういう床は非常に困ってしまうので、早急に小学校体育館全体を見ながら、ひどいところから1棟と言わずに年に3棟ぐらいは改修に進めてもらいたいのですけれども、どうでしょうか。

○分科会長（針谷正夫君） 柿沼学校施設課長。

○学校施設課長（柿沼宏和君） 委員おっしゃるとおり、私の思いも同じでして、特に体育館につきまして床がささくれ立ってしまう、そういったときに、けがなんかも出てしまう。そういった中で、複数棟をやるように努力していきたいと思えます。

○分科会長（針谷正夫君） 松本委員。

○委員（松本喜一君） ぜひ頑張って予算取っていただければ、議会のほうは教育に金をかけるというのは文句言う人もいないと思うので、ぜひお願いしたいと思います。よろしく申し上げます。要望で結構です。

○分科会長（針谷正夫君） 広瀬委員。

○委員（広瀬義明君） 教育に金をかけるのに反対する方がいないと信じてご質問させていただくのですけれども、同じ315ページ、小学校プール整備事業費1,738万円、プール改修工事費となっておりますが、学校名と改修の程度をお知らせください。

○分科会長（針谷正夫君） 柿沼学校施設課長。

○学校施設課長（柿沼宏和君） お答えいたします。

こちらの予定では、静和小学校のろ過機の修繕工事、約345万円を予定しておりまして、そのほか大平西小学校、ろ材の交換工事約148万円、あと部屋小のプール水槽の修繕工事、こちら800万円、あと真名子小学校のろ過機排水管の改修工事約440万円を予定しております。

○分科会長（針谷正夫君） 広瀬委員。

○委員（広瀬義明君） プールの改修等については、たしか私、数年前から幾度となくお伺いしておりますが、今後はプールの統廃合も含めて改修云々よりも数を減らしていくように努めていくというか、そういう方針だという答弁をいただいております。皆さんご存じのとおり、市内43校の小中学校の中で大平中学校だけがプールがない。カリキュラムを遂行するのにも弊害が出ているので、何とかしていただけないかという話をしましたところ、それは大平の頃になくなったものだから知らないみたいな、知らないということはないのでしょうか、要するに予算の都合でプールを建設するのは無理だと。だったら目の前の運動公園を使って造っていただけないかと、そうすれば大平の地域の全ての小中学校でプールが駄目になったときにも、そこでできるだろうと。さまざまな角度をお願いをしてまいりましたが、今後も市内の小中学校のプールが改修、補修が必要になったときは、全て直していかれるおつもりなのでしょうか。

○分科会長（針谷正夫君） 柿沼学校施設課長。

○学校施設課長（柿沼宏和君） プールについては、整備方針、これについて確固たる確定、それができていなくて申し訳ないのですけれども、今のところ、今回1,000万円を超える修繕はない状況なのですけれども、本当に水槽ごと新築というものにつきましては、その場で検討していきたいと思えます。

あと、すみません、ここ個人というあれではおかしいのですけれども、特にほかの他市状況、プールをなくすという動きも大分出ているところなのですけれども、そういった中で意外と中学校利用率が少ないという中で、まだちょっと方針が決まっていないのですけれども、まず中学校から本当に大規模なものが修繕、何億円もかかるようなものについては、バスとかそういったものも、バスでどこかの私営の個人でやっているプール、そういったところも考えていきたいと思っております。ただ、全体的なこうしようという、確固たるものが今なくて申し訳ありませんが、そういう状況です。

○分科会長（針谷正夫君） 広瀬委員。

○委員（広瀬義明君） 小中学校の統合再編計画といったものの中で、プールというのはまた別個のものだと私は考えておまして、市のほうでそういう指針を示しているのであれば、学校校舎、屋内運動場と併せてプールについても、市内の小中学校のプール全ての調査をしていただいた後に修繕するのか、統廃合していくのか、そういった方針というのを将来的に決めていく必要があると思うのですが、その辺のお考えはいかがでしょうか。

○分科会長（針谷正夫君） 柿沼学校施設課長。

○学校施設課長（柿沼宏和君） 本当にこちらにつきましては課題であり、方針をまず決めなくてはならないと思っております。ただ、これちょっとプール、夏の本当に一部しか使わないで、非常にお金がかかるということで、だんだん全国的に少なくする、そういった動きが大分前にあった。実際そうやっているところがあるのですけれども、そこについても今新たな問題も出てきているとい

うような情報も入っていますので、そういったものを研究しながら方針決めていきたいと思っております。

○分科会長（針谷正夫君） いいですか。

針谷育造委員。

○委員（針谷育造君） 311と315の小中学校のコンピューター関係で、学校教育課長もいますから、その辺のところを聞きたいと思います、予算等については先ほど各委員さんが聞いておりますので、私が一番聞きたいことは、GIGAスクールとは一体何ぞやと。では、今までの教育がどう変わって、何を目的にしていくのかということを私は私なりに調べてありますけれども、学校教育課長としての考え方を聞かせてください。

○分科会長（針谷正夫君） 大阿久学校教育課長。

○参事兼学校教育課長（大阿久 敦君） 今のご質問の件でございますが、実際に一般質問の中でも教育長が申し述べた部分があったかと思えます。私も同じような考えでおりまして、子供たちがタブレットを使うことに関しましては、私も当然これは一つの道具であって、学びを深めるためにそれを活用していくということに関して、これからしっかりと計画を立てていきたいと思っております。基本的に必要なのは、やはり子供たちの深い学びですので、そこに至るには機械ではなくて、やっぱり人と人の相對した、それが教育だというふうに私も考えております。それが基本になっていて、やはり教員が1人ですと、教室は1人が普通ですが、1人ですとなかなか目が行き届かないところも当然ございますので、そういった部分でそれぞれの子供たちの学びに適したものができるよう、そのタブレットをうまく使いながら、最終的には教員と子供というものが相對して教育が成立できるような、そんな教育を今後もしっかり行っていきたいというふうに思っております。

○分科会長（針谷正夫君） 針谷育造委員。

○委員（針谷育造君） 教育長と課長の考え方は一貫しておりますので、私もそれには賛成であり、全てがコンピューターで子供たちがこの教育を受けて、それで成長するというのは、あまりにも公教育の中ではあってはいけません。教育長も人格形成、これを強調していたようでありますので、そういう意味では文科省も、コンピューターの導入は経産省がもう主導しているわけです。今回のコロナによって、さらに拍車をかけたと、そういうふうに私は思っているのです。

Society5.0とありますよね。これもその仕上げ版という、これは教育関係よりも経産省のほうがあることに力を入れている。今、大阿久課長のほうからその話を聞いて、いつまでも大阿久課長がいるわけではないので、次の課長が来たときには、教育長がいるから、それらは継続していくと思っておりますけれども、まさに公教育がコンピューターによって取り変わってしまうと。人間がそこには介在する、集団であるとか、組織的なものとか、あるいは教科外のものであって初めて子供は円満な人格が形成されていくのだと思っておりますので、その辺のところはぜひコンピューターが全てではない、私もそう思います。道具という言葉で、まさに的確に表現してくれましたけれども、まさに

私も道具であって、道具は人が使うので、そういう意味では……

○分科会長（針谷正夫君） 育造委員、手短に結論のみお願いいたします。

○委員（針谷育造君） だからその方針をぜひ買っていていただきたいということです。

もう一ついいでしょうか。

○分科会長（針谷正夫君） では、小久保副分科会長に先、先ほどから手を挙げていますので。

○副分科会長（小久保かおる君） すみません。確認というか、ちょっとお聞きしたいのですけれども、315ページの小学校保健事務費の中の学校薬剤師報酬というのがあるのですけれども、学校医報酬とかその下のは分かるのですけれども、この学校薬剤師報酬だけは、多分昭和33年のときに学校保健法が変わって、また平成21年のときに健康保険の法律が変わったということから、これは学校医師のことなのかなと思ったのですけれども、何か難しく、簡単に言えば保健の先生のことなのでしょうか、ちょっとそこが確認したくて。

○分科会長（針谷正夫君） 五十畑保健給食課長。

○保健給食課長（五十畑 肇君） 予算書の315ページ、小学校保健事務費の中のでよろしいでしょうか。

〔「はい」と呼ぶ者あり〕

○保健給食課長（五十畑 肇君） 学校薬剤師報酬、こちらにつきましては、学校のほうには学校医さん、あとは学校歯科医さん、あと薬剤師さんを配置するというので薬局の薬剤師さん、そういった方をお願いをして配置しております。その方の報酬になっております。

○分科会長（針谷正夫君） 小久保委員。

○副分科会長（小久保かおる君） でも、この方は常時小学校にいないのではないのですか、ちょっと確認の質問です。

○分科会長（針谷正夫君） 五十畑保健給食課長。

○保健給食課長（五十畑 肇君） 常勤ではございません。学校のほうから何かあったときとか、相談とか、あとは学校の環境衛生基準ですか、そういった検査とか、そういったときに行っていたくような形になりますので、常勤ではございません。

○分科会長（針谷正夫君） 小久保委員。

○副分科会長（小久保かおる君） では、栃木市の小学校を全部この経費でやっているという捉え方でよろしいのですか。

○分科会長（針谷正夫君） 五十畑保健給食課長。

○保健給食課長（五十畑 肇君） 学校薬剤師さんにつきましては、各学校をお願いをして、トータル22名の薬剤師さんをお願いしております。

○分科会長（針谷正夫君） よろしいですか。

小久保委員。

○副分科会長（小久保かおる君） すみません。分かりました。

○分科会長（針谷正夫君） 針谷育造委員。

○委員（針谷育造君） 学校給食の無償化について、令和3年度当初予算説明書の53ページのナンバー80、これをちょっと質問していきたいと思います。これでいきますと総予算が8億973万7,000円ということで、事業の概要、事業の内容の中を見ますと、一番下に給食無料化実施に伴い、その他特財1億3,256万1,000円、その金額があるわけで、私も再三申し上げておりますけれども、学校給食の無料化というのは時代の流れであるというふうに私も思っております。

問題は、地方自治体の貧しい財源の中で、この財源が確保できるのかと、来年度は1億三千万何がし確保できると思いますけれども、市長がずっと言っていたのは安定財源、これが私も一番の財源だと思うのです。大野財務部長は、節約でこの金を生み出します。そうすると、来年は節約でいいけれども、その次はどうなのだ。安定財源というものの考え方と見方、あるいは今後、どういう財源を確保していくかというのをご回答願いたい。

○分科会長（針谷正夫君） 川津教育部長。

○教育部長（川津浩章君） 以前は、安定財源ということで1人1,000円ずつ減額するというときにはなっていたかと思いますが、議員の皆様にもいろいろご説明していく中で、小学校6年生と中学校3年生ということで年間約1億3,000万円かかるということで、大野部長が申しましたとおり、全体の中から少しずつ削って生み出していくと、節約して生み出していくということが続けていくということだと思います。

○分科会長（針谷正夫君） 針谷育造委員。

○委員（針谷育造君） 安定財源こそが行政のイロハのイです。節約して政策を実行するなんていうのは、愚策の愚です。安定財源というものをつくらない限り、そしてそれは来年も、5年後も、10年後もという計画のない中で、この給食の無償化が行われるというところが問題だと私は思っております。もう一回答えてください。

○分科会長（針谷正夫君） 川津教育部長。

○教育部長（川津浩章君） 確かに針谷委員さんおっしゃるとおり、安定財源があれば、それを活用していくということだと思いますが、その節約して生み出していく中で安定財源を模索しながら、今後も継続していきたいと考えております。

○分科会長（針谷正夫君） 針谷育造委員。

○委員（針谷育造君） 安定財源という、これは非常に重要なことでありまして、安定財源というので一番手っ取り早いのは普通税に特別税ができるわけですから、給食税というものを特別税としてつくればいいわけです、安定財源という。でも、安定財源は、今の部長の答弁であれば否定をしています。節約で乗り切っていくと、そういうお話でした。それで、財源が確保できるという保証が5年後、6年後に、それはつないでいけるのですか。

○分科会長（針谷正夫君） 川津教育部長。

○教育部長（川津浩章君） 継続していけるようにしていかなければならないと考えております。

○分科会長（針谷正夫君） 針谷育造委員。

○委員（針谷育造君） もうこれ以上議論はしません。

○分科会長（針谷正夫君） ほかに質疑はありませんか。

白石委員。

○委員（白石幹男君） 給食費の問題になったので、その下、学校給食調理業務民間委託、これは去年よりも多くなっている、多分増えているのかなと思いますけれども、どうなのでしょう。

○分科会長（針谷正夫君） 五十畑保健給食課長。

○保健給食課長（五十畑 肇君） お答え申し上げます。

民間委託につきましては、栃木第四小学校給食共同調理場が来年から民間委託になりますので、その分が上乗せとなっております。

○分科会長（針谷正夫君） 白石委員。

○委員（白石幹男君） 今現在、直営で第四小やっているわけですよ。その職員の方たちというのは、来年度からどういうふうになるのでしょうか。

○分科会長（針谷正夫君） 五十畑保健給食課長。

○保健給食課長（五十畑 肇君） お答え申し上げます。

そちらにつきましては、職員ですので、このたびの人事異動でどちらかに配置されるというふうに思われます。

○分科会長（針谷正夫君） 白石委員。

○委員（白石幹男君） では、調理業務から離れるということなのでしょう。調理業務、まだ直営が中央小だけ、ある……

〔「ない」と呼ぶ者あり〕

○委員（白石幹男君） ないのか、もうないのだ。では、もう……

〔「保育所」と呼ぶ者あり〕

○委員（白石幹男君） 保育所。どういうふうな形になるのでしょうか。

○分科会長（針谷正夫君） 五十畑保健給食課長。

○保健給食課長（五十畑 肇君） 委員ご指摘のとおり、直営の調理場はもうございませんので、調理業務から離れるという形になると思われます。

○分科会長（針谷正夫君） 白石委員。

○委員（白石幹男君） これは本人たちが了解しているのならまだあれですけれども、そこら辺は慎重にやっていただきたいと思います。

別なことで、少人数学級35人、これはどこで聞いたらいいのかよく分からないのだけれども。

○分科会長（針谷正夫君） 何ページになるでしょうか。

○委員（白石幹男君） 分からないのだよ。

〔何事か呼ぶ者あり〕

○委員（白石幹男君） やっと来年度から35人学級が導入です。栃木県はもう35人学級になっているから別に問題ないのだけれども、国は来年度から1年ずつ繰り上げていくと。そうしますと、その加配というか、そういう先生の財源が来るわけだと思っただけだけれども、そういうのはどうなのですか。それは県のほうなのですか。

○分科会長（針谷正夫君） 大阿久学校教育課長。

○参事兼学校教育課長（大阿久 敦君） 公立学校の教職員の報酬等については、県費と国の費用という形ですので、市のほうは直接関係ございません。

○分科会長（針谷正夫君） よろしいですか。

○委員（白石幹男君） では、県のほうがちょっと楽になるということですね。

それで、35人学級で、栃木県はないなとって、ちょっと問題点で、栃木第三小なのですけども、保護者の方から、何年生だったか忘れたけれども、3年か4年かな、36人いるのだと、35人ではなくて。何でなのだというようなことを聞いたのだけれども、そこら辺はどうなのですか。

○分科会長（針谷正夫君） 大阿久学校教育課長。

○参事兼学校教育課長（大阿久 敦君） その件は、こちらもお話を伺って確認はしておりますが、実際普通学級在籍の児童は35人、特別支援学級のほうに同じ学年で児童が在籍はしています。そういった子が、例えば全ての教科、特別支援学級で受けるのではなくて、教科によっては同じ学年の子たちと一緒に授業を受けると、そういう状況がどこの学校でもございます。そういったときに、1人が入ってきて36人だというような言い方をされているのかなというふうに認識しております。

○分科会長（針谷正夫君） 白石委員。

○委員（白石幹男君） では、そういう特別支援の児童も含めて、4年生だか何だか忘れてしまいましたけれども、4年生は71人とか72人とかとなるわけではないのですか。そうしますと、71人になれば3クラスになるわけですよ。そういうふうなことにならないのですか。

○分科会長（針谷正夫君） 大阿久学校教育課長。

○参事兼学校教育課長（大阿久 敦君） 学級編制については、普通学級の児童生徒、それから特別支援学級の児童生徒で分けて学級編制を行っておりますので、合わせた人数での学級編制は行っておりません。ですので、先ほどのようなことが起こってしまうということでございます。

○分科会長（針谷正夫君） 白石委員。

○委員（白石幹男君） では、特別支援の学級には専門というか、そういう先生がふだんはくっついてやっていると、そういうことでよろしいのですか。

〔「はい」と呼ぶ者あり〕

○分科会長（針谷正夫君） それでは、よろしいですか。質疑はありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○分科会長（針谷正夫君） ないようですので、教育部所管の質疑を終了いたします。

ここで議事の終了した執行部の皆様は、退席していただいて結構です。お疲れさまでした。

執行部の入替えを行いますので、少しお待ち願います。

すみません、委員の皆さんに申し上げます。トイレ休憩をしますので、10分休憩をします。

（午後 5時22分）

---

○分科会長（針谷正夫君） 休憩前に引き続き会議を開きます。

（午後 5時35分）

---

○分科会長（針谷正夫君） 次に、生涯学習部所管の歳入歳出等を一括した質疑に入ります。

なお、質疑に際しましては、分科会説明表の生涯学習部を御覧の上、所管部分をご確認いただき質疑をお願いいたします。

質疑はありませんか。

松本委員。

○委員（松本喜一君） 325ページ、美術館作品収集事業費で……

〔何事か呼ぶ者あり〕

○委員（松本喜一君） これ予算が100万円というのですけれども、美術品を買うのに100万円で何が買えるのかなと思って心配しているのですけれども。

○分科会長（針谷正夫君） 青木文化課主幹。

○文化課主幹（青木一忠君） お答え申し上げます。

作品といたしましては、渡辺省亭という画家の日本画と、それから田中稲村、一村の父親、その方の彫刻なのですが、そちらを合わせまして100万円の予算で検討しております。

○分科会長（針谷正夫君） 松本委員。

○委員（松本喜一君） 美術館が完成するので、もう本当にいいのを買ってくれるのかなと思ったら100万円なので、あまり予算がないので驚いたのですけれども、これから計画あるのですか、こういうものを高額のものでどうしても仕入れて買いたいというのはあるのでしょうか。

○分科会長（針谷正夫君） 青木文化課主幹。

○文化課主幹（青木一忠君） お答え申し上げます。

具体的にまだ何というものはありませんけれども、市にとってこれは大変価値のあるものだというものが出てきたときには、補正でも何でも対応するような形で購入できるように検討していきたいというふうに考えております。

○分科会長（針谷正夫君） 小久保委員。

○副分科会長（小久保かおる君） 同じく325ページなのですけれども、市内遺跡調査事業費というのが昨年よりも予算が増えているのですけれども、西方城跡発掘調査ということでよろしいのでしょうか。

○分科会長（針谷正夫君） 金井文化課長。

○文化課長（金井武彦君） お答え申し上げます。

この市内遺跡調査事業費につきましては、西方城の発掘調査とはまた別の事業になります。西方城の発掘調査につきましては、同じ325ページの下から3事業上がったところのふるさとの城郭群再発見事業費、そちらのほうが西方城の発掘調査の費用になってございます。

ご質問いただきました市内遺跡調査事業費につきましては、文化財保護法に基づきまして、例えば住宅を建てるとか、あとは店舗、開発をする場合、文化財の包蔵地なんかを土地の造成をする際に発掘調査に必要な費用として支出をするものでございます。また、市内には幾つかの包蔵地がございまして、出土品も幾つかございます。そういったものの整理作業等も本事業で行うというふうな予定でございます。

以上でございます。

○分科会長（針谷正夫君） 小久保副分科会長。

○副分科会長（小久保かおる君） すみません。では、改めまして、ふるさとの城郭再発見事業費というものの今後の見通しというのは計画性を立ててやっていると思うのですけれども、ちょっと教えていただけますでしょうか。

○分科会長（針谷正夫君） 金井文化課長。

○文化課長（金井武彦君） 西方城の発掘調査につきましては、令和2年、本年度発掘調査に入りまして2年目になってございます。新年度には引き続き発掘調査を行いますとともに、資料調査、昔の古文書とかを調べたり、あとは地籍調査といまして昔の土地の地番なんかを調べたりというふうな調査をする予定でございます。令和4年度には、その発掘調査報告書の取りまとめに入りまして、令和5年度には国の指定に向けまして具申をしまいたいというふうな予定をしているところでございます。

以上でございます。

○分科会長（針谷正夫君） よろしいですか。

ほかに質疑はありませんか。

白石委員。

○委員（白石幹男君） 来年度からの組織改編で、公民館課、あとスポーツ振興課、主にそういうところが地域づくり推進課に移行するのですけれども、市長部局になるということで、特に公民館の主な果たす役割というのが生涯学習というかが大きいと思うのだけれども、地域づくり推進課とい

うことでそこに移行することで、そういった生涯学習の後退というか、そういうことはないのかなと思うのだけれども、どうなのですか。

○分科会長（針谷正夫君） 佐藤生涯学習課長。

○生涯学習課長（佐藤義美君） 質問にお答えいたします。

今までの公民館関係業務につきましては、社会教育関係の業務として公民館で引き続き組織が変わっても行っていくということになりますので、それで衰退するというようなことはないかなというふうに考えております。また、アシストネット関係につきましては、栃木市の教育の独自のシステムでございますので、こちらにつきましては教育委員会のほうの事務として補助執行という形で行っていただくということで、引き続き市全体のものにつきましては生涯学習課のほうで調整を図りながら行い、そしてアシストネット本部関係については公民館のほうで行っていただくということで、そこら辺は連携を図りながら行っていくということで、生涯学習関係が衰退するというのではなく、行っていく体制はつくっているということで進めてまいります。

○分科会長（針谷正夫君） 白石委員。

○委員（白石幹男君） 社会教育主事、生涯学習の専門職というか、そういう形ですけども、こういった今現在、生涯学習部にいるのだろうけれども、そういった方というのは地域づくり推進課のほうに移っていくことになるのですか。

○分科会長（針谷正夫君） 佐藤生涯学習課長。

○生涯学習課長（佐藤義美君） 公民館のほうには各旧町単位に社会教育指導員さんがおまして、その方は公民館の業務、そして地域振興課のほうに移りましても勤務していただく予定でありますので、講座関係のほうにつきましては引き続き社会教育指導員さんが担当していただければかと思えます。

また、教育委員会、生涯学習課のほうに社会教育主事で有資格者もちろんおりますし、また公民館のほうにもそういう方は何名かはいらっしゃいますので、そういった職員の中の有資格者の方は引き続き公民館のほうにも勤務していただけるように職員課のほうにも要求はしておりますので、そういった配属なんかも配慮はしていただけるかなというふうには思っておるところでございます。

○分科会長（針谷正夫君） よろしいですか。

ほかに質疑はありませんか。

針谷育造委員。

○委員（針谷育造君） 327ページ、上から3段目ですか、開館記念特別展業務委託料と1,337万5,000円がございましてけれども、開館に当たってどのような計画で、どんな規模でやっていくのか、その辺がありましたら教えてください。

○分科会長（針谷正夫君） 中山文化課主幹。

○文化課主幹（中山幸夫君） 開館記念の特別展でございますが、現在のところ、まだ考慮中ということで考えておりますが、開館にふさわしいような、特に文学館につきましては今ちょうど100年で、来年は101年目、新たな100年を始める第一歩としてふさわしいような企画展のほうを行ってきたいというふうに考えております。

以上です。

○分科会長（針谷正夫君） ほかに質疑はありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○分科会長（針谷正夫君） それでは、ないようですので、生涯学習部所管の質疑を終了いたします。なお、議事の終了した執行部の方々は退席していただいて結構です。大変ご苦勞さまでした。

---

◎議案第8号の上程、質疑

○分科会長（針谷正夫君） 次に、日程第2、議案第8号 令和3年度栃木市栃木インター西産業団地特別会計予算を議題といたします。

なお、特別会計予算につきましても、一般会計予算同様、本分科会での説明は省略いたします。

これより審査に入ります。

お諮りいたします。本案については、歳入歳出等を一括して審査いたしたいと思っております。これにご異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○分科会長（針谷正夫君） ご異議なしと認め、そのように決定いたします。

ただいまから歳入歳出等を一括した質疑に入ります。

質疑はありませんか。

広瀬委員。

○委員（広瀬義明君） 歳入のほうでちょっと1点質問させていただきたいと思っております。歳入のほうといたしますか、歳入側の比率といたしまして繰入金、そして市債の土木債、この2点で成り立って、雑入は項目保存ですので、この際除外いたしますが、土木債の比率が95.8%と非常に高い。この比率の決定は、どのように行われたのでしょうか。

○分科会長（針谷正夫君） 中田産業基盤整備課長。

○産業基盤整備課長（中田芳明君） こちらにつきましては、まず産業団地の造成を事業債をするに当たりまして、産業団地の起債対象となる工事費を上げました。そちらにつきましては8億8,400万円、ちょっと出たのですけれども、そこで切り捨てまして、8億8,400万円というふうに算出したものでございます。

○分科会長（針谷正夫君） 広瀬委員。

○委員（広瀬義明君） 今の説明をお聞きしますと、まず歳出を計算した後に対象になるものを、そ

れ以外のものを繰入れて賄っているという構成でよろしいのでしょうか。

○分科会長（針谷正夫君） 中田産業基盤整備課長。

○産業基盤整備課長（中田芳明君） はい、そのとおりでございます。

○分科会長（針谷正夫君） 白石委員。

○委員（白石幹男君） 産業団地造成事業が始まるのですけれども、587ページ、事業費で聞きます。

これは初年度としてはこんな感じになっていますけれども、事業としては何年でやるのですか。

○分科会長（針谷正夫君） 中田産業基盤整備課長。

○産業基盤整備課長（中田芳明君） 令和3年度から令和7年度でございます。

○分科会長（針谷正夫君） 白石委員。

○委員（白石幹男君） 経済情勢というか、そこら辺も考えてやらないと大きな失敗になると思えますけれども、令和7年あたりどうなっているかというのも、いろいろコロナの問題とかあって大変混乱している状況ですけれども、どのように見ているのでしょうか。

○分科会長（針谷正夫君） 中田産業基盤整備課長。

○産業基盤整備課長（中田芳明君） 令和7年度におきましてもなかなか予測が難しいということもございますが、コロナもワクチンが出たということもありまして、私としては明るい未来を想定しているところでございます。よろしく申し上げます。

○分科会長（針谷正夫君） 白石委員。

○委員（白石幹男君） 非常にそういった産業団地造成というか、失敗例もありますし、慎重に進めるべきだと思います。ここで私の考えを言ってもしょうがないけれども、しっかり経済情勢とか見ながらやっていただきたいと思います。

以上です。

○分科会長（針谷正夫君） 質疑はありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○分科会長（針谷正夫君） ないようですので、これをもって質疑を終了いたします。

---

#### ◎閉会の宣告

○分科会長（針谷正夫君） 以上で当分科会の審査は終了いたしました。

なお、分科会長報告の作成については、正副分科会長にご一任願います。

また、繰り返しになりますが、3月24日水曜日、午前10時から予算特別委員会全体会において分科会長報告、質疑、討論、表決を行いますので、よろしくお願いいたします。

それでは、これをもちまして予算特別委員会産業教育分科会を閉会いたします。

大変ご苦労さまでした。

（午後 5時51分）